

台湾情報誌

交流

2015年12月 vol.897

公益財団法人 交流協会
Interchange Association, Japan

台湾のドキュメンタリー映画
『あの頃、この時』と金馬賞の50年



交流

2015年12月
vol. 897

目次

CONTENTS

台湾のドキュメンタリー映画『あの頃、この時』と金馬賞の50年 …… 1 (戸張東夫)	
「リアルタイムな財務管理と経営理念の浸透を重視」 友嘉実業グループ朱志洋総裁と陳向榮副総裁へのインタビュー ～中国における友嘉工作機械博物館開館を記念して …… 6 (福岡賢昌・根橋玲子)	
Computex 2015で注目を集めた ベンチャーパピリオン/台湾ベンチャー事情(2) ……14 (吉村 章)	
2015年第3四半期の国民所得統計及び予測 ……18	
2015年第3四半期国際収支を発表 ……27	
台湾俳句史(1985～2013)(3) ～日本語俳句と外国語俳句～ ……29 (吳昭新)	
台湾通信 セカイノメイショ ……34	
編集より ……36	

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

● 交流協会について ●

公益財団法人交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も太宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

台湾のドキュメンタリー映画『あの頃、この時』と 金馬賞の50年

ジャーナリスト 戸張 東夫



楊力州監督。2015年11月14日東京の台湾文化センターにて撮影

台湾のドキュメンタリー映画『あの頃、この時（那時・此刻）』（2014年）はドキュメンタリー映画の第一人者である楊力州監督の最新作である。

地元台湾でもまだ公開されていない。2013年台湾の映画賞である金馬賞（Golden Horse Award）が50周年を迎えたのを記念して、台湾政府文化部（文部科学省）に依頼されて製作したもの。金馬賞の授賞式は映画人やファンの年にいちどの華やかな映画の祭典だ。会場に綺羅星のごとく集うスターたち、金馬賞を持った手を頭上に高々と掲げて小躍りする受賞者、アメリカの大物女優エリザベス・テーラーも1979年の授賞式にゲストとして登壇した。このような歴年の授賞式が次から次へ展開され、画面を明るく彩る。だがその一方で、政治的目的で作られた金馬賞が台湾内外の政治情勢や社会の変化と連動しながら、政治離れを進め、今日のような国際的な映画の祭典に変身した経緯をタブーを恐れずに語り、金馬賞の枠にとらわれずに、映画史、台湾現代史に踏みこむ厚みのある作品になった。

金馬賞は中国語圏唯一の国際映画祭

金馬賞は、今日香港の香港電影金像獎、中国の金鶏百花獎（金鶏百花映画祭）とともに中国語圏の三大映画賞と呼ばれ、しかも香港と中国の映画賞が地元の映画しか対象にしないのに対し、金馬賞は国籍に関係なく作品の参加を認める中国語圏

で唯一つ開かれた国際映画祭として重視されている。政治色の全くない映画賞である。

金馬賞の由来についてはなぜか語られることがあまりないが、もとはといえば標準中国語（台湾では国語という）を普及させるために政府が組織したのである。だが、あれから半世紀、いまや知る人も少ない。『あの頃、この時』の中に「金馬賞がなぜ金の馬（Golden Horse）なのか知らない」という若い映画ファンが登場するが、あれからすでに半世紀経った。地元台湾でも知る人は少ない。

まずここで金馬賞の背景についていささか説明しておこう。

台湾は1949年から1987年まで38年の長期にわたって戒厳令下にあった。この時期は国家の映画に対する統制、管理が厳しく台湾映画の“冬の時代”だった。映画は政治の道具とみなされていたから、政府の指示に逆らうことは出来なかった。政府がこんな要求を映画に突きつけた。「映画の中では標準中国語を使うこと、台湾語など方言は禁止する」というのである。このため台湾映画では、身分や出身にかかわらず登場人物はすべて正確で美しい標準中国語を話すことを求められた。これが台湾映画のリアリティを損なう結果となり、長い間台湾映画を悩ませた。台湾映画が標準中国語から“解放”されるには80年代の“ニューシネマ”の登場まで待たねばならなかったのである。

金馬賞は中国語普及のために設けられた

国民党当局は、もともと中国本土の政権だし、台湾を中国の一部とみなしていたから、台湾の公用語は標準中国語と早くから決めていたのである。戦後日本から台湾を接収すると、いち早く台湾省国語推

進委員会を設置、国語の普及に着手した。この活動はその後学校を通じて進められ、「すべての授業を中国語で行い、台湾語を厳禁せよ」との命令も発せられた。だが台湾の圧倒的多数を占める台湾人の母語は台湾語であり、児童、生徒はともかく、台湾全土に中国語を広めるのは容易なことではない。そこで映画に応援を頼んだということなのである。

だが当局はそれだけでは不十分と考えたのであろう。中国語推進に貢献した映画を顕彰するための映画賞を設けることになった。これが今日の金馬賞である。金馬の二文字は国共内戦の最前線にある金門島と馬祖島に由来する。両島の兵士の戦闘精神に学べというのだろう。また長い間金馬賞の授賞式は10月31日に挙行されていた。これは蒋介石総統の誕生日に当たる。つまり蔣総統の長寿を祝う意味が込められていたのである。また金馬賞が長年、中国を敵視し、排除してきたことはよく知られている。金馬賞も国共内戦を戦っていたのである。

台湾現代史に踏み込む『あの頃、この時』

『あの頃、この時』は金馬賞の50年を振り返る



金馬賞50周年記念特集を組んだ台湾の月刊誌『台湾光華雜誌』

のだから台湾映画の“冬の時代”に触れないわけにはいかない。だが、いまや21世紀だから、検閲も政府の干渉も気にせず“歯に衣着せぬ”映像でこれまでになく踏み込んで真相を明らかにしている。金馬賞についても、もともと標準中国語普及の目的で作られたことはもちろん、金馬賞の名称の由来などを語り、金馬賞が漸進的に政治色を薄め、官営から民営へと変身し、今では政治的に対立する中国の映画や映画人が参加するまでにオープンになった経緯を詳しく語っている。

映画のかなりの部分が“冬の時代”に当てられているが、“冬の時代”を告発するというより、台湾映画のこれまでの歩みを政治的、社会的背景と結びつけ、映画を通じて台湾の政治と社会の変化を考える作品になっている。これがこの作品の特徴であり、優れたところだと筆者は考えている。映画は映画を生み出した社会と切り離し難く結びついている。社会が変われば映画も変わる。映画が変われば、それは社会が変わったからだ。そんな考え方で金馬賞を中心に台湾映画の50年を振り返っているのである。台湾現代映画史であると同時に台湾現代史になっているところがとてもいい。台湾と台湾映画を理解するのにこれほど適切な映画は滅多にないであろう。

この作品のもうひとつの特徴は、映画ファンの視点を取り入れたことだ。この手の作品は得てして映画界の話になりがちなので、一般の観客にも登場してもらいたいと考えたという。映画はファンと密接な絆で結ばれている。映画はファンに支えられ、ファンは映画から夢や希望や、生きる喜びを与えられる。どんな時代にどんな映画が作られようとも、映画と民衆の関係は変わらない。そんな監督の考え方がうかがわれる。

グロテスクな真実も語る

ただ、戒厳令下の台湾の状況は、複雑で、分かりにくい。われわれ外国人の常識で理解できない



楊力州監督

ことも少なくなかった。だからこのドキュメンタリーを観ていても、その時代を経験した人でなければ分からないというところが少な

らず登場する。

たとえば映画の冒頭のシーン。中華民国の国歌が流れる。スクリーンには台湾の豊かさや近代化を誇示する画面を背景に国歌の歌詞が大きく映し出されている。国歌が終わるまでこの画面が延々と続く。長すぎるとさえ思える。だがこれにはわけがある。戒厳令下の台湾では映画館で映画を観るときは、本篇が始まる前に観客は全員起立して国歌を斉唱しなければならなかった。そのときに映されたのがこの画面なのだ。つまり観客はこの画面が映されている間は坐ることが出来なかったのである。筆者も80年代初めにこれを経験したことがある。国歌を知らなかったので、黙って立っただけだが、最初はひどく緊張したような記憶がある。

この国歌の歌詞の画面は、戒厳令下の台湾の映画を取り巻く、厳しくも、振り返ってみればどこか滑稽な状況を皮肉交じりに再現したものなのである。監督が敢えてこのシーンを挿入した意味は、いまや地元台湾の若い世代の観客には理解できないに違いない。わが国で上映する機会があれば配給会社が、何かの形で詳しい解説をつけることが望まれる。

それにしても文化部がスポンサーのドキュメンタリーにもかかわらず、こんなグロテスクな真実を語る事が出来るのだから、時代の流れを改めて感じてしまう。

楽しめた往年の名画や思い出のシーン

これは言うまでもあるまいが、この作品の最大の魅力は台湾映画そのものにある。政治だとか、歴史だとか、そんな話ばかりしてきたが、このドキュメンタリーで筆者の最大の喜びは台湾映画史の中の重要な作品を数多く観ることが出来たことである。期待に違わず往年の名作や話題作の思い出のシーンが数え切れないほどスクリーンに映し出され、胸が躍った。実に楽しかった。

唐宝雲（女優）が、長い竹ざおをたくみに使いながらアヒルの群れを追って、小川にかかった橋を渡っていく田園風景は『アヒルを飼う家』。北京を遠く離れた辺境の砂漠で刺客に襲われる石雋。武侠映画の名作といわれる『残酷ドラゴン 血斗龍門の宿』である。日本軍の捕虜になるのを潔しとせず、戦場に仁王立ちになって自刃する柯俊雄の国民党軍の張自忠中將。これは抗日映画『英烈千秋』の山場としてよく知られている。用も無いのに家々の門の呼び鈴を鳴らして逃げていく下校途中の小学生の悪ガキたち。これはニューシネマの代表作のひとつの『少年』である。それぞれわずか数秒間の映像だから、もちろんタイトルなどは後になって、思い出したものもないわけではない。だがこの思い出す“作業”も楽しみのひとつなのだ。後まで楽しめるというわけである。

* 上記四作品の原題、監督、製作年は次の通り。

- ▼『アヒルを飼う家（養鴨人家）』李行、1965年
- ▼『残酷ドラゴン 血斗龍門の宿（龍門客棧）』胡金銓、1965年
- ▼『英烈千秋』丁善璽、1973年
- ▼『少年（小畢的故事）』陳坤厚、1983年。

『あの頃、この時』に山形の映画祭で出会う

『あの頃、この時』は今年（2015年）10月山形市で開かれた山形国際ドキュメンタリー映画祭2015のときわが国で初めて上映された。映画祭

と並行して台湾文化部と山形大学人文学部付属映像文化研究所が共同で「映像は語る—ドキュメンタリーに見る台湾の光と影」というタイトルの共同企画を立てた。ここで台湾のドキュメンタリー映画十一作品を3日間で集中的に上映したのである。台湾のドキュメンタリーは、長編劇映画に伍して一般の劇場で単独公開されることも少なくない。それだけ力作が多いのである。それに台湾のドキュメンタリー十一作品を一挙に観ることができる機会は滅多にない。ファンとしては見逃すわけにはいかないところである。これら十一の作品はすべて1990年代以後の作品で、この中に楊力州監督の『あの頃、この時』が含まれていたのがある。これ以外の十作品は「山形ドキュメンタリーライブラリー」所蔵の作品から選んだものだが、この中にもいくつか見ごたえのある作品を発見したので紹介してみたい。まずなぜ1990年代以後の作品を選んだのかという点だ。



台湾映画の特別企画「映像は語る—ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」の資料

政治的、社会的地殻変動始まる 1990 年代

台湾では1949年以來全土に戒嚴令を敷いていた。この戒嚴令がガンとなって、自由も、人権も認められない状況が38年間も続いていたのである。またこの時期は映画に対しても厳しい管理、統制が行われた台湾映画の“冬の時代”だった。この戒嚴令が1987年に解除されたのである。1990年はその3年後だ。この時期の重さが分かるというものだ。だがそれだけではなかった。

翌1988年1月台湾のストロングマン蔣経国総統が死去し、台湾人の李登輝副総統が総統に昇格した。台湾人が台湾の最高指導者になったのはこれが初めてだったことから、台湾全土が沸き立ち、まるで革命でも起きたような喜びようだった。1990年代はスタートから台湾のこのような政治的、社会的地殻変動が広がり深まる形勢を見せていたのである。

これが作品に影響しないわけがない。山形で観た作品はどれも政府当局の不手際を告発したり、同性愛者の権利と苦悩をあからさまに大胆に描き出したり、知能障害者を主人公にしたり、というぐあいだ、戒嚴令の時期には考えられないテーマばかりであった。

面白かったのは『陳才根的隣居們（陳才根と隣人たち）』（呉乙峰監督、1996年）、『無米楽』（葉蘭權・莊益增監督、2005年）、『青春啦啦隊（青春ララ隊）』（楊力州監督、2011年）である。いろいろな意味でよく出来た作品に思えた。

タブー取り上げた『陳才根と隣人たち』

『陳才根と隣人たち』は、台北最大の繁華街南京東路と林森北路一帯に当時密集していた不法建築のバラック集落にひっそり生きる七人の老いて独身の外省人（戦後中国大陸からやって来た人）を見つめたもの。七人とも国民党軍の軍人として台湾にやってきたものの、さまざまな理由で貧しく



楊力州監督

不自由な一人暮らしを迫られている。1987年11月台湾住民の大陸親族訪問が解禁されたため、大陸に残してきた家族と再会を果たしたり、

相互に連絡を取り始めたものもある。だが60年の歳月は家族との間の大きな溝となり、老兵の帰国をためらわせている。不法建築のバラックは近く強制撤去される。この先の当ても無く、成り行き任せの老人たち。外省人の悲哀が胸を突く。

この問題は台湾では「老兵問題」とよばれ戒厳令の時期の長い間政治的タブーとして触れることが出来なかった。

『無米楽』は「コメを作らなければ、楽しく暮せる」などこぼしながらも、水牛とともに昔ながらのコメ作りを続ける老夫婦の生き様を記録した。副業にワタを打ったりしているから、生活は決して楽ではないし、安価な輸入米も脅威になってきた。それでも朝からコメ作りに精を出し、全てをありのままに受け入れて心静かに過ごしている。台湾人の芯の強さを感じさせた。

『青春ララ隊』は、ともすれば暗くなりがちな老人問題を明るく、ユーモラスに取り上げた。高齢者は社会から邪魔扱いされ、家族に疎まれるお邪魔虫だ。事情はわが国でも変わらない。だがここに登場する人たちは違う。積極的にチアリーダーチームに参加して、ポンポンを振りながら新たな友人や生きがいを見つける。このシニアグループの平均年齢は七十歳だという。タイトルに「青春」という二文字をつけた作者の暖かいまなざしとユーモアが全篇にあふれている。さわやかな印象が残る。

当局の統制と管理に泣いた台湾映画

さて仮にこれが戒厳令の時期だったらどんなこ

とになったであろうか。

『陳才根と隣人たち』はテーマそのものがタブーであったから、企画の段階で待たがかかったに違いない。『無米楽』は機械化も出来ない貧しい農民を映画に取り上げるのは「中華民族の尊厳にかかわる」と批判されただろう。『青春ララ隊』はどうか。いい歳をして奇妙な服装でチアリーダーチームに加わってポンポンを手に踊るなど公序良俗に反する。恥を知れ！でボツか、出来上がっても検閲であちこちカットされそうだ。

若い世代の人たちにはバカバカしく思えるようなことがまかり通っていたのである。もっともいまだからバカバカシイなどと言えるが、当時の映画人にとっては身を切られるような苦痛だったのである。

* 山形で集中上映した十一の作品の残りの作品は以下の通り。

- ▼『如是生活、如是 Pangcah (これぞ人生、これぞアミ族)』マーヤウ・ビーホウ、1998年
- ▼『Malakacaway 倒酒的人 (酒祭の男たち)』同、2009年
- ▼『私角落 / Corner's (コーナーズ)』周美玲、劉芸后、2001年
- ▼『雜菜記』許慧如、2003年
- ▼『25歳、国小二年級 (25歳、小学二年)』李家驊、2003年
- ▼『三叉坑』陳亮豊、2005年
- ▼『築巢人』沈可尚、2012年。

(2015年11月21日)



台湾ドキュメンタリー上映会会場となった山形市内の遊学館

シリーズ・台湾トップ企業経営者へのインタビュー

「リアルタイムな財務管理と経営理念の浸透を重視」 友嘉実業グループ朱志洋総裁と陳向榮副総裁へのインタビュー ～中国における友嘉工作機械博物館開館を記念して

亜細亜大学アジア研究所嘱託研究員 根橋 玲子
法政大学グローバル教養学部准教授 福岡 賢昌

2015年版ジェトロ世界貿易投資報告書によれば、2014年の対日直接投資額は90億7,800万米ドル（前年比の2.85倍増）で、最大の対日投資相手国は43億米ドルの米国であり、2013年まで2番目であった欧州は、22億米ドル減となった。一方、アジア全体の対日投資額は54億米ドルとなり、北米からの投資額を上回った。このうち台湾は、前年比8億円5千万増の10億3400米ドルであり、アジアでは第3位（1位は香港、2位はシンガポール）の対日投資額となっている¹。

ここ数年、台湾製造業が日本への投資を行う動きがみられているが、2012年に台湾大手EMS企業である鴻海精密工業がシャープディスプレイプロダクト（SDP）のM&Aを行ったことは記憶に新しい。また、2014年6月には台湾大手銀行である中国信託商業銀行が東京スター銀行を5億2,900万米ドルで取得しており、近年台湾企業の対日投資が堅調に進んでいる。

一方で、リーマンショック後の受注減少や円高など厳しい経営環境に置かれた日本の中小企業は、特に2008年以降、数年間にわたる極度な円高基調での利益圧縮等の影響を受け、生き残りをかけて海外展開を進めてきた²。しかし、2012年

10月に日銀金融緩和が評価され円安基調となった後も³、さらに海外展開を進めており、小規模事業者では15.0%の事業者が、中規模企業では28.5%が海外展開をしている⁴。

このように日本企業が海外展開や海外での製造や販売を加速する中、前述のように日本国内でのものづくりを重視する台湾企業がある。2014年5月に総合工作機械・産業機械メーカーの老舗である株式会社池貝の株式を中国上海電気⁵から取得した台湾大手工作機械メーカーの友嘉実業集団である⁶。

友嘉実業集団（本社：台中、従業員数：4974名〈2015年5月〉、売上高：グループ全体35億米ドル〈2014年〉）は、年間売上高として33億米ドルを誇るが、2015年6月、自動車用工作機械の世界的メーカーであるドイツMAGグループ（MAG IAS GmbH）の全株式を取得し、今や世界有数の工作機械メーカーとして注目されている。1979年に台湾で設立された友嘉実業集団（以下、FFG）は、地元の老舗ブランドを買収し、台湾で最大の工作機械メーカーとなった。1989年より、イタリア、ドイツ、スイス、米国、日本、韓国などでも

¹ 2014年版ジェトロ世界貿易投資報告～日本を国際ビジネス循環の基点に

² 2011年10月21日付ニューヨーク外国為替市場で円相場が対米ドル75円78銭の戦後史上最高値を更新した。2007年の円相場平均対米ドル117.75円から、徐々に円が上昇、4年で為替レートは40円円高となり、輸出関連企業を中心に日本製造業は大きな打撃を受けた。

³ 2015年12月1日付外国為替市場では東京市場で対ドル123.10円（中値）とリーマンショック以前の水準まで戻している。

⁴ 経済産業省中小企業庁発行「2015年版日本中小企業白書」による

⁵ 中国上海電気は、2004年にM&Aにより池貝のオーナーとなった。

⁶ 2014年5月13日付株式会社池貝プレスリリース。

M&Aを開始し、今やグローバルで80社以上のグループ企業を有している。

そのため、FFG創業者でありグループ総裁の朱志洋氏は、近年は、台湾の経済紙やビジネス雑誌等のメディアから、「併購大王（買収王）」⁷という見出しで取り上げられることが多くなってきた。但し、インタビューを通じ、各氏の記者が朱総裁の人柄に触れると、この「買収王」のイメージよりも、朱氏の仕事に対する熱意を強く感じるようである。

1. 友嘉実業集団総裁朱志洋氏インタビューより（2014年11月8日）

1) 生い立ちから創業まで

日本統治時代、朱総裁の父親は台湾で日本語教育を受け、学者となった。父親は台湾大学卒業後に京都大学博士課程に留学をしており、東京大学でも一時期研究をしていた⁸。朱総裁はこうしたエリート家庭で育ったが、小さい頃は勉強が嫌い、早く仕事をして自立したかったという。

そのため、基隆海事学校を経て、台湾海洋大学海洋エンジニアリング科を卒業し、船の補修エンジニアとなった。一度乗船すると、台湾に戻ってくるのは数か月後であるため、仕事第一、家庭は二の次になってしまったという。最初の子供が生まれる時に立ち会えず、戻ってきたときに子供はもうハイハイやお座りが出来るようになっていた。船上での機械補修の仕事は誰も頼る者もなく、辛く厳しいものだった。毎日海だけを見ながら、24時間のシフト体制で、機械を修理する日々が続いたが、最後はエンジニア長となり、この過

酷な経験が創業後の苦勞を乗り切る原動力となったという。

こうした中でも、休暇を利用して、新聞広告で売却希望企業を見つけるなど、様々なリサーチを行った。当時は財務諸表も読めず、企業買収の経験も全くなかった。これまで貯蓄した自己資金を元手に、1979年に友嘉実業を設立したが、初年度の売り上げは100万元足らずであった。当時の神戸製鋼の代理店が1年半たっても1台も売れていなかったことから、代わりに建設機械の代理店を任せてもらい、2か月で23台販売することができた。そのことで、やっと総代理店として認められたという。しかし、事業が軌道に乗ったものの、仕事量にマンパワーが追いつかず、日本側の信頼を勝ち取るために、一日10時間以上一心不乱に働いた。その後リョービの代理店にも任命され、従業員も増え少し経営が安定してきたため、1980年以降、自社で工作機械の製造を行うようになったという。

1982年の石油ショックでは、会社の資金が底をつき、最悪の事態も想定したが、その時の経験で、「ポケットを多くして同じ籠に鶏と卵を一緒に置かないこと」⁹と、問題が起こる前に早目に準備することを学んだという。現在、朱総裁は半年先までのキャッシュフロー予測を常に行っている¹⁰。

2) 日本企業とのアライアンス

現中国信託ホールディング最高顧問で三三會会長の江丙坤氏が台湾の経済大臣であった時代に、

⁷ 2015年10月11日付工商時報より。

⁸ 京都大学では元台湾総統の李登輝氏、東京大学では元国民党副主席江丙坤氏と親交があった。

⁹ 朱氏によれば、これは「同一取引先に依存せず、成長分野と成熟分野を見極めて投資すること」を差す。

¹⁰ 「成爲最佳合資伙伴出（最適な合弁パートナーになるために）」朱志洋、周行一（2012年10月）ハーバードビジネスレビュー台湾版。朱氏と政治大學財務管理系所周行一教授の対談が掲載されている。

日本との貿易インバランス問題解決を目的として台湾政府主導で組織された「OEM 訪日団」ミッションがある。そのミッションに1986年、団長として参加したことが、同氏が日本企業とのアライアンスを推進するきっかけとなったという。というのもミッション団長として来日した際に、最初の合弁相手であるアネスト岩田との出会いがあったからである¹¹。

このミッションを契機として、これまで30年にわたり、同社を含め、高松機械工業、日本ケーブル、メクトロン、豊田通商、和井田製作所等、多くの日本企業との合弁事業や提携事業を成功させてきた。2000年代以降は、これら日本企業との中国における合弁事業も行うなど、市場や事業の幅を拡大していった。

日本企業との合弁事業に際し、朱総裁が最も重視することは、「長期的な関係構築を前提とした信頼関係」である。合弁事業は「結婚」と同様で、長期的関係が結べる相手でないと行わない。さらに、日本企業と台湾企業の役割分担を明確にし、相手の得意分野は完全に任せることが重要であるという。特に、日本企業の中国投資では、現地化を行うことは必須であるが、現地人材の採用や管理については、現地マネージャーに任せる方が良い。但し、この任せ方というのは、「任せて任せず」で、きちんと管理すべきところは管理することが大事であるという。実際に、M&Aによりグローバル拠点が増加しているが、朱総裁は基本的には現地責任者に全て一任している。ただし、拠点の月次決算には全て目を通し、数字に少しでも疑義がある場合には、深夜であっても現地責任者に説

明を求めるといふ。

また、朱総裁は、合弁企業のマネジメント手法にも定評がある。合弁企業の出資比率を決定する場合には、双方の企業がそれぞれ董事長任命や議決権をきちんと持つことができる出資構成となるよう采配するほか、例えば仲介した商社などが、配当金など一定の利益を得られるようにマイノリティ出資を依頼するなどの配慮を怠らない。

3) 経営理念の確立と合弁パートナーの選択

友嘉実業集団は、朱総裁の強力なリーダーシップのもと、世界有数の工作機械グループとなってきたが、同社はグローバル拠点や子会社、パートナーとの協調を行う際に、同集団の経営理念の共有を意図的に行っている。

「友嘉集団のコアバリュー（核心価値）」は、①誠実さと責任感（Sincerity & reliable）、②個人の才能を重視（Values individual intelligence）、③社会責任（Social responsibility）、④顧客第一（Respect to our client）、⑤生涯学習の環境（Life long learning environment）である。

①は、「誠実に信用を守る」という経営理念と、「勤勉に儉約を追及する」という企業文化を継承しながら、「真面目で責任感を持つ」という仕事の態度を示している。これは、エンドユーザーや社会の人々の信頼や好感を勝ち得て、永続的経営の基盤や企業の競争力を固めることを目的としている。

②は、社員個人の創意工夫や才能を重視するために、有効な奨励制度を実施することで、社員個人の才能を引き出すことを重視している。これにより、社員が私利私欲なく、会社の発展に協力し、経営成果を分かち合うこと目的としている。「卓越を追求し、絶対諦めない」というサービス精神が、現在、社員全員に共通認識を持たせ、一丸と

¹¹ 野村総合研究所台北支店（ジャパンデスク）発行「日系企業と積極提携、工作機械業界のナンバーワンを目指す友嘉集団」中華民国台湾投資通信 August 2011 vol.192

なって努力に向かう道しるべとなっている。

③は、社会から恩恵を受け、社会に報いるという理念に基づき、同社は、社員が積極的にチャリティー活動に参加することを推奨している。行動で社会に貢献する人材を育てるという志を持ち、同社は新しい人材の育成に力を入れてきたという。また、こうした人材は、FFGの将来のために、社内で大事に育まれていく。

④は、同社が顧客のために常に考えるプロセスが、経営管理の源となっており、顧客の発展に役立つよう、品質重視の姿勢を取っている。そのため、同社は開発設計、生産製造、技術改新、マーケティング、サービス、行政支援システムに力を入れ、高い作業品質、製品品質、サービス品質を確保している。

⑤は、社員が生涯学習を行う環境を整えることを重視している。現場で持続的に改善を行うためには、社員が絶えず勉強することが必要であり、これがボトルネック突破の鍵である。現在、同社社員は、お互いに激励しお互いに勉強するという、良い習慣を作りあげている。会社と社員が学習の機会を通じ、「謙虚」「無私」という価値観に基づき、新しい知識を吸収して成長することを目的としている。

また、FFGはコアコンピテンス（核心競争力）として、①製品シリーズの完備（Extensive product lineup）、②人的支援（Group have a wealth of talents）、③生産管理の強化（Lean production management）、④協力体制の完備（Integrity of suppliers system）、⑤国際化合作資源（Globalization enterprise）、⑥マーケティングとサービスネットワーク（The network of sales & service）の6つを挙げている。

①は、同社が上級レベルから中級レベルにわたり、各種マシニングセンターと旋盤機シリーズの

多様なラインナップを有しており、顧客がFMS（フレキシブル生産システム）を行うための主力製品となりうることを示している。

②は、各事業部には、関係部署の専門人材が多数存在し、こうした人的資源を組織的に統合することで、グループとして最大の効果を発揮することである。

③は、事業部毎に、購買管理、在庫管理、生産管理を集中し、製造コストを最低限に下げる努力を行うことである。

④は、FFGの各協力工場において、有効なシステム統合を行うことで、同グループにおけるサプライチェーンや各社の経営資源を組織的に活用できるメリットを持っている。

⑤は、同グループのグローバル化による経営資源や各市場の販路、ブランド効果、共同開発などを有効に活用することで、顧客利益や協力企業の利益、そして友嘉集団の利益がともに保証されるという、「三方良し」の価値観を達成することを目的としている。

⑥は、同グループのグローバル化に伴い、海外市場のマーケティングノウハウやネットワークを有していることである。そのため、逐次海外の市場動向を把握し、顧客に丁寧で迅速に、同社サービスや品質を提供することにより、顧客満足を高めることを目的としている。

これら、FFGのコアバリューやコアコンピテンスの源流にあるものは、「We always think more for our clients（我々は常に顧客のためにより多く考える）」という同グループのスローガンであろう。

また、朱総裁は、過去の野村総研のインタビューにおいて、合弁事業成功の秘訣として、「認め合い」「相互補完」「人才」「経営者」「量力而為（身の程を知る）」「Win-Winの関係」という、6つの要件

を挙げている。そして、特に、朱総裁が、パートナー企業の経営者に求める資質は、グローバルな視野と誠実さであるという。

「認め合い」とは、合弁企業双方が同等のリソースを出し、それを認め合うことであり、「相互補完」とは、互いの強みと課題を見極め、補完し合うことで、競争力を高められることである。また、「人才」は、「二軍」ではなく、「優れた人材」を双方が出し合って共同経営にあたること、「経営者」は、利害関係だけでなく、経営者同士の考え方が一致していることを重視としている。「量力而為（身の程を知る）」は、準備資金、余剰資金ともに、自分の身の丈に合った合弁事業を行うことであり、また、「Win - Win の関係」とは、短期的な成功よりも、「必ず成功する」ために「細く、長く」事業を続けていく決意の重要性である。

近年メディアでは、「買収大王」と称されることの多い朱総裁であるが、政治大学財務管理系所周行一教授の「御社は現在すでにグローバル企業となっている中で、さらに買収を進めるのは何故か？」という質問に対して、以下のように回答している¹²。「買収や合弁事業は企業を成長させるため経営判断の一つではあるが、必ず状況を見ながら行わないとならない。実際に我々は、合弁事業は歓迎している。ただし、買収に関しては、同一産業であることが原則で、自社内に適切な人材や商流、技術などが見つからない場合には行わない。」¹³

2015年6月、FFGがドイツ有数の機械コンツェルンであるMAGグループ買収を行ったが、当時の経済日報の取材に対し、巷で買収王と呼ば

れる朱総裁から「この買収が、台湾の産業発展や安定のためになれば。」という謙虚な発言が聞かれ、詰めかけた記者を驚かせた。FFGは「飲水思源 永續經營」を経営スローガンに掲げており、「台湾というのは、木の根っこに似ており、水分を吸収して養分を蓄える。でも根っこだけでは不十分で、枝や葉がなければ樹木は大きくならない。ただし、根っこがきちんとしていれば、枝葉は生い茂り、樹木は何百年も生きていける。」とも語っている。同社は、「台湾に根付き、アジアにつながり、グローバルに活動する」ことが目標だという。

朱総裁は、ファナック創業者で、現在同社相談役名誉会長の稲葉清右衛門氏に年一度訪問を行う。海外の工作機械メーカーで同氏と面会できるのは、韓国斗山董事長と同氏のたった二人だけであるという¹⁴。一方で、2014年10月に筆者は台中本社訪問を行ったが、朱総裁自らが玄関にわざわざお出迎え下さり、さらに終始丁寧でにこやかにご説明をしてくださったことが、今でも印象深く思い出される。

どのような人間にも分け隔てなく、気さくに声を掛ける朱総裁は、遠方からの客人を出迎えるために、綺麗な中国服を召され、高級中国茶でもてなしをされるが、一方で、自らの行動は厳しく律しておられ、質素であることを美德とされている。例えば、高級車と専属運転手を持たずタクシーで移動を行っており、その理由は「便利で節約となり、常に調達可能だから」という¹⁵。また、朱総裁は、会議や展示会のために海外出張を行う場合でも総裁以下幹部、職員ともすべて一緒にエコノミークラスで移動している。さらに、飛行機でも

¹² 2012年10月号ハーバードビジネスレビュー台湾版にて掲載。

¹³ 「成為最佳合資伙伴出」朱志洋、周行一（2012年10月）ハーバードビジネスレビュー台湾版

¹⁴ 「台日工具機之王 合攻中國」作者：熊毅晰 2013-09-04 天下雜誌 530期

¹⁵ 「朱志洋震撼出手為台灣爭口氣」2015-08-24 04:53 經濟日報記者宋健生／台中報導

新幹線でも会議を行うなど、時間も資金も浪費しないという徹底した儉約の姿勢が、メディア関係者にもその人徳を高く評価される理由の一つであろう。

2. 友嘉実業集団副総裁陳向榮氏インタビューより (2015年3月19日)

友嘉集団の副総裁である陳向榮氏(以下、陳氏)は、中国の本社機能を有する杭州友佳精密機械有限公司董事長であり、主に日系大手企業や中堅製造業との関係構築を行っている。陳氏の生い立ちは、今までほとんど語られたことがない。陳氏は、1945年に香港の上流家庭に生まれたが、1946年に家族で広州に移住し、1953年に香港に戻って、その翌年に家族で台湾に移住し、苦勞しながら日本語を習得した。台湾にある日系企業での勤務を経て朱総裁と出会い、以降朱総裁の片腕として、友嘉集団の発展を支えてきたキーパーソンである。

陳氏によれば、「友嘉集団が創業してから33年の奉仕期間内、いつも恩を感じている。友嘉集団が良い経験と鍛錬の機会を与えてくれて、社会で努力するチャンスを与えてくれた。このすべてに心より感謝している。」という。

また陳氏は、FFGは創業してからすでに33年が経っているが、常に朱総裁の経営理念を尊重し、尊敬している。同氏の人生観は「控えめに身を処して、実務的に仕事をして、完璧を追求する。」ことであり、「私は董事長でなく、総経理と呼ばれるのが好きな、ただの執行者」と自らを称されている。そして、「友嘉の仲間達と一緒に頑張って、企業の使命を追及しており、「無私、無我」の精神に基づいて、個人名誉、利益を求めない」とも語った。

陳氏の副総裁としての理念は、忠誠心をもって



写真1 朱総裁(右側)

出所: 筆者撮影

会社のために働くことは、常に自分の仕事の中心にあり、ひけらかさないことである。そして、「ありのまま」は自身を処する原則であり、遵守している法則は、「企業論理を守ること」「自分の立場を弁えること」である。さらに、朱総裁の作成した「友嘉集団のコアバリュー・コアコンピデンス」に則って日々事業を遂行しているという。

陳氏はインタビューの中で、「予測力のある経営者の理念に則って、事業部主管が事業を遂行し、目標を達成することは、同僚や部下を絶えず成長させる」とも語った。そのため、同氏は、「日系企業との合弁事業についても、合弁相手の成功的発展を望んでいる。同社は日系以外の外資系企業とも合弁を行っており、その経験から、ほんのわずかな知識やノウハウでも、日本企業と分かち合いたい。」とも語る。

陳氏によれば、海外の市場開拓を行うために必要な要件は以下の3つである。

1. 魚のように深くもぐりなさい～ブルーオーシャンで誰もいないところで競争する。
2. 鳥のように高く飛んで遠く見渡しなさい～失敗は「先輩」のようなものだ。先にチャレンジした人の行動をよく見る。
3. 虫のように触角を敏感に働かせなさい～政策



写真2 陳副總裁

出所：筆者撮影



写真3 開幕式の様子

出所：友嘉実業集团提供

や社会の趨勢に敏感になる。地面に沿って、頭を下げている。低姿勢であり、謙遜の気持ちを忘れない。

陳氏にお会いすると、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という諺が頭に浮かぶ。陳氏の、大変控えめな経営姿勢や会社への熱い思いを伺うにつけ、松下幸之助の企業理念の伝道師とも言われた高橋荒太郎¹⁶が思い起こされる。「ありのまま」という哲学を重視されている陳氏は、まさに友嘉実業グループのバイプレーヤーであり「名番頭」といっても過言ではないだろう。ここに陳氏の言葉か

ら、筆者が最も感動した一文を抜粋する。

「どのようなことでも、協業相手とシェアすれば、かえって有形無形の様々なものを得ることができます。いつでも恩に感じて、社会に心より感謝しているべきだと思います。私は、社会から良い学習機会と自己を鍛える機会を頂きました。これは人生において、この上なき幸せだと思います」。

2015年6月26日に、中国杭州にある同グループの工作機械オペレーター養成学校である友嘉機電学院内に、「友嘉工作機械博物館」が設立され、その開幕式が行われた。この博物館は友嘉グループの企業文化の伝承のために造られているが、FFGの企業責任や教育責任により掲げられた、産、学、研の交流プラットフォームとして、今後の世界の工作機械工業の発展に役に立ちたいという思いもあるという。陳氏は、「この『ミニ博物館』を通して、社会の各産業界に工作機械産業を支持して頂くことは、我々の本望です。」と語った。

3. 最後に

近年、台湾企業の対日投資ニーズとして、日本への市場アクセスへの期待に加え、日本に拠点を構えることにより自社の技術力を増強し、今後の中国やアジアの競合企業とのグローバル競争に備えたいという希望が強くなっている¹⁷。台湾と日本は、歴史的経緯もあり日本に在住する台湾華僑も多い。そのため、資本参加や技術提携、人材交流等、日台企業間におけるアライアンスが行いや

¹⁶ 高橋荒太郎氏は、松下電器(現パナソニック)で専務、副社長、そして会長を歴任。高橋氏は、財務知識面から松下氏を支えるとともに、企業理念を組織に浸透させる片腕となった。

¹⁷ 根橋玲子(2008)「台湾企業の対日投資成功事例と地方への投資促進に対する提言」財団法人交流協会発行「交流」No794

すく、統計には表れないような、様々な形の対日投資も行われている¹⁸。

友嘉集団は、優れた技術力を有する日系中堅・中小企業との資本提携を多数行っているが、朱総裁の対日 M&A の前提は、同社が「基盤構築や経営支援を行うことで、日本企業が優れたものづくりを継続的に行えるようになる」ことであるという。実際に、FFG は、上海電気からの株式譲渡の翌月に、池貝をすでに月次決算ベースで黒字化しており、経営状況を大幅に改善させた¹⁹。

グローバルに顧客を有し、なおかつ日本の技術力を高く評価する友嘉集団は、対日投資後の企業

パフォーマンスも重視している。同社の対日投資案件は、日本の大手商社や銀行が仲介することも多く、いわゆる日本企業救済型 M&A の要素が強いと言えよう。

* 友嘉實業集團 總裁 朱志洋氏略歴

學歷 海洋大學輪機系卒業、中原大学工学名誉博士、中原大学管理学名誉博士

現職 友嘉實業集團總裁友佳國際控股有限公司主席

台灣工商建設研究會名譽理事長

台灣財務主持人協會名譽理事長經歷

¹⁸ 横浜企業経営支援財団 HP のコラム掲載原稿「台湾企業の対日投資・M&A の動向と展望～具体的事例からの考察」より

¹⁹ 2014 年 11 月 20 日友嘉集団朱志洋総裁へのインタビューによる。

Computex 2015で注目を集めた ベンチャーパビリオン/台湾ベンチャー事情(2)

台北市コンピュータ協会駐日代表 吉村 章

■ 5 ■ 電源コンセントにそのまま差し込む画期的な超ミニ PC

LinkNext (聯齊科技)

製品名は「NextDrive Plug」(ネクストドライブ・プラグ)、大きさ5 cmほどのキューブ型の超ミニ PC。本体をそのままコンセントに差し込む。本体には無線モジュールが内蔵されている。USB 接続でハードディスクに繋がないでければ、外出先のスマートフォンからクラウド環境を手軽に利用することができる。スマートフォン用にファイルや写真のバックアップをするパーソナルクラウド環境を構築するデバイスとして利用することができる。

利用者は本体をコンセントに差し込んで NextDrive Connect (専用アプリ) を立ち上げておけばいい。Wi-Fi で接続で外出先のノートブックやタブレットからの利用も可能だ。本体には複数の USB ポートがあり、Web カメラやハードディスクなど複数のデバイスを接続することが可能だ。

さまざまな USB デバイスがスマートフォンを使って簡単にコントロールできるようになり、スマートフォン同士の互換性を気にすることなく、共有のクラウド環境を作ることもできる。まさに IOT 時代にマッチした時代をリードする電源タップ型の超小型ミニ PC である。

例えば、USB 接続でカメラを繋いで設置しておくと、その場ですぐ監視カメラとして利用することができる。コンセントさえあれば設置場所を選ばず、狭い場所での設置や手軽に設置場所を移動することも可能だ。コンセントに本体を差し込

み、カメラを繋いで NextDrive Connect (専用アプリ) を立ち上げるだけという簡単さと使い勝手のよさが「強み」である。

また、USB 接続で CD プレーヤーを繋いでおくと外出先から音楽を聞くこともできる。大容量のハードディスクを繋いでおくとホームサーバー的な利用も可能だ。接続するハードディスクによって容量に制限なし。USB ポートは複数あり、同時に複数の機器を接続して使うこともできる。

例えば、カメラを子供部屋に設置したり、家中にある家電製品の集中管理に使ったり、さらに複数の「NextDrive Plug」を使って部屋ごとにカメラを設置し、オフィスや家の中のセキュリティに活用したり、さまざまな用途が考えられる。手軽さ、便利さ、コストパフォーマンスのよさ、使い方を工夫すれば無限の可能性を秘めた製品だ。

LinkNext (聯齊科技) の成立は 2013 年末、5 人で創業した。まだ設立間もないベンチャー企業である。IC 設計やスマートフォンの研究開発、アプリ開発、クラウド技術などに「強み」を持つ。今回のパビリオン主催にも名前を連ねている Epoch(時代創造)が運営する Garage+ インキュベーションセンターに入居。

独特な発想で製品開発を行い、設立間もないながらも開発力とその実績には業界から一定の評価を受けている。(TCA 東京事務所では有志でサンプルを購入し評価中。興味がある方はご連絡ください。TEL: 03-3299-8813)

➤ NEXTLINK TECHNOLOGY CO., LTD. (聯齊科技)

台北市汐止区大同路 1 段 126 号

No. 126, Section 1, Datong Rd, Xizhi District,



たとえば USB 接続でカメラを繋いで設置しておくと、その場ですぐ監視カメラとして利用することができる



本体をそのままコンセントに差し込むという斬新な発想の超小型 PC

New Taipei City, Taiwan
 TEL : + 886-2-2691-7071
 FAX : + 886-2-2691-8071
<http://tw.nextdrive.io>

■ 6 ■ フレキシブルに曲げることができる厚さ 0.36mm の薄型リチウムセラミックバッテリー

Prologium Tecnology Co.,Ltd. (輝能科技)

昨年の Computex2014 でも注目を集めたフレキシブルリチウムセラミックバッテリー。昨年に引き続き今年も Computex のスマテク・エリア (Smart Technology Application & Products) に

最新製品を出展。この製品の特徴は従来のようなバッテリー内に電解液を使用するのではなく、固体型リチウムセラミックを使うところ。来場者の関心が高く、昨年と同様にブースはいつも人垣ができていた。

バッテリーを組み込む対象によって大きさ、形などをフレキシブルに変えることができる。また、自由自在に折り曲げることもできるので、時計のベルトの中やスマートフォンのケースのヒンジにあたる部分などに組み込むことも可能。厚みはわずか 0.36mm、さまざまな利用用途が考えられる。

担当者によると「自由な発想でデザインしたバッテリーケースを 3D プリンで出力し、特殊用途で使うバッテリーや自分だけのオリジナルバッテリーを作ることもできる」という。外付けのバッテリーとして手袋や帽子、ベルトや靴、衣類にマッチする形を工夫してバッテリーを装着し、身に付けるものから電源供給を受けることも可能。このような使い方も夢ではないという。

また、狭い空間を有効活用してバッテリースペースを確保したいケースにも最適。さらに製品の試作や少量生産のモデルへの対応など、さまざまな需要がありそうだ。実施に 3D プリンタで出力した特殊な形状の成型部品に、このバッテリーを組み込んで使うといった使い方の事例も報告されている。

自社開発の FLCB (FPC Lithium-Ceramic Battery) は「安全性」にも十分に配慮され、曲げても液が漏れない固体の電解質を使っている。ニードルのようなもので突き刺しても、ハンマーでたたいても、はさみで切っても、熱を加えても、ショートしたり発火したりしない。昨年の Computex では Best Choice Award と d&i award イノベーション設計賞を受賞した。

➤ Prologium Tecnology Co.,Ltd. (輝能科技)
 新北市五股区五工路 127 号 4 F



自由自在に折り曲げることもできるので、時計のベルトの中やスマートフォンケースのヒンジにあたる部分などに組み込むことも可能



厚みはわずか0.36mm、3Dプリンタで出力した特殊な形状の成型部品に、このバッテリーを組み込んで使うとオリジナルバッテリーができる

4F, No. 127, Wugong Rd, Wugu District,
New Taipei City, Taiwan
TEL : + 886-2-2299-5486
FAX : + 886-2-2299-5878
<http://www.prologium.com/>

■ 7 ■ 3D プリンタ「ダヴィンチ」、価格攻勢 で世界市場を狙う XYZprinting XYZprinting (三緯國際立體列印科技)

Computex2015 では第1ホールに3Dプリンタ・エリアを設置。昨年まではスマテック・エリア

(Smart Technology Applications & Products) に3Dプリンターパビリオンが設けられていたが、今年は独立して第1ホールへのパビリオン設置となった。

XYZ Printing は「ダヴィンチ」というブランド名で個人ユース向けに3Dプリンタの普及を目指している。「ダヴィンチ」シリーズは同社の主力製品。普及モデルからハイエンドモデルまで多彩なラインナップがある。ブースではレーザーマーキング機能を搭載しているモデルを展示し、実際に文字を刻印するデモを行っていた。

3Dプリンタは低価格化が進んでいる。その低価格化の動きを世界の市場でXYZprintingがけん引していると言えそうだ。XYZprintingでは定評がある「ダヴィンチ」シリーズを日本向けに約5万円という価格帯で販売予定。このモデルは造形サイズには限界があり、あまり大きなものは作れないが、この大きさで十分という人には魅力的な価格。3Dプリンタは今後ますます普及が見込まれる。

XYZprintingは新金宝グループ(新金宝集团)の一員。2013年に3Dプリンタを自社ブランドで展開するために設立された。新金宝グループ(新金宝集团)では世界大手の印刷機メーカーのOEMを手掛けてきた。プリンタ関連製品や基盤実装、電卓や電子ピアノなどのOEMも行っている。

その新金宝グループ(新金宝集团)は金仁宝グループ(金仁宝集团)の傘下にある。金仁宝グループ(金仁宝集团)とは複数の企業集団を傘下に抱える世界的な総合EMS企業である。大手パソコンのEMSメーカーであるCompal Electronics(仁寶電腦工業)も金仁宝グループ(金仁宝集团)の一員。新金宝グループ(新金宝集团)は中国、ベトナム、ブラジル、ポーランドなど世界各地に生産拠点を持つ。

XYZprinting(三緯國際立體列印科技)は3Dプリンタに特化してオリジナルブランドによる製



XYZ Printing は「ダヴィンチ」シリーズ、日本向け5万円を切るモデルも

品開発に取り組んできたメーカー。製品名は「ダヴィンチ」で、いち早く低価格化を打ち出し、欧米の市場からは高い評価を受けている。

また、3Dプリンタの他にも植物工場などの製品開発も行っており、新規分野への積極的な進出を試みているベンチャースピリッツに溢れた企業である。Computex のブースでは室内でレタスなどの野菜を栽培できるキットも出展していた。植物工場というよりはむしろパーソナルユースでインテリア性の高い製品。リーズナブルな価格帯となれば、今後日本でも普及しそうな製品である。

また、ダヴィンチシリーズには3Dフードプリンタもある。これはノズルから食用素材を噴出し、クッキーやチョコレートの造形が可能な3Dプリンタで、アメリカのCESでも話題になった製品。プリントアウトしたクッキーをそのままオーブンで焼いたり、チョコレートで細かな造形

細工を作ったり、文字の描画などもできる。

食べ物以外でもオリジナルの形をそのまま3Dプリンタでコピー出力して、まったく同じ形のクッキーやお菓子を作ることができるわけで、アニメキャラクターをそのままお菓子にしたり、食べられるフィギアを作ったり、考えるだけでも楽しい製品である。

Computex 第1ホールの3Dプリンタ・エリアには他にもさまざまな3Dプリンタや3Dスキャンが出展されていた。ノズル部分をさまざまなアタッチメントで変更が可能な3Dプリンタや3Dスキャナ内蔵型なども出展。Computexでは近未来のコンセプトモデルや試作品ではなく、市販が予定されている最新モデルが見ることができる。Computexならではの製品展示といえるだろう。



ノズルから食用素材を噴出し、プリントアウトしたクッキーをそのままオーブンで焼くこともできる。3Dスキャンで読み取ったフィギアをそのままお菓子にすることも

➤ XYZprinting (三緯國際立體列印科技)

新北市深坑區北深路三段147號

TEL: +886-2-2662-2660 ext.28761

<http://us.xyzprinting.com/>

info@xyzprinting.com

<http://jp.xyzprinting.com/>

台湾ベンチャーについて、イノベーションテーマパビリオン（創新創造主題館）については、TCA 東京事務所まで。(03-3299-8813、e-mail:ippc@tcatokyo.com)

2015年第3四半期の国民所得統計及び予測

2015年11月27日 主計処発表

I 概要

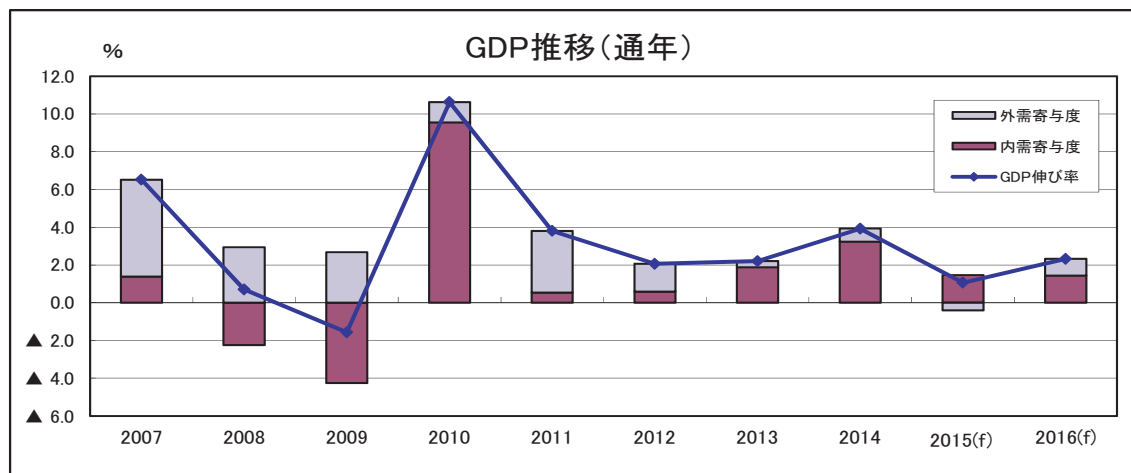
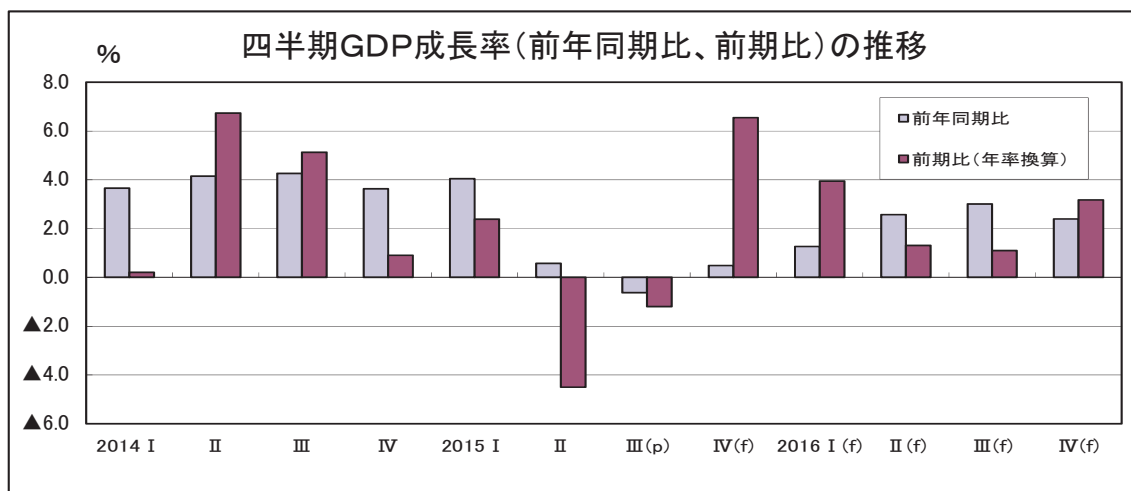
行政院主計処は11月27日、2013年第1四半期から2015年第2四半期の国民所得統計の修正、2015年第3四半期の国民所得統計速報値、2015年第4四半期及び2016年の経済見通し等を発表した。概要は以下のとおり。

- 一、2013年及び2014年の経済成長率は最新資料によりそれぞれ+2.20%（修正前+2.23%）、+3.92%（修正前+3.77%）に修正。
- 二、2015年第1、2四半期の経済成長率（yoy）は+4.04%（修正前+3.84%）、+0.57%（修正

前+0.52%）に修正。

三、2015年第3四半期の経済成長率（速報値）は▲0.63%、8月時点の予測値（+0.10%）より0.73%ポイントの下方修正となった。第4四半期の経済成長率は+0.49%（8月時点の予測値より1.41%ポイントの下方修正）。2015年通年では+1.06%（0.50%ポイントの下方修正）となる見込み。一人当たりGDPは2万2,355米ドル、消費者物価（CPI）は▲0.31%となる見込み。

四、2016年の経済成長率予測は+2.32%となり、8月時点の予測値（+2.70%）から0.38%ポイ



ントの下方修正。一人当たり GDP は 2 万 2,228 米ドル、CPI は + 0.84% の見通し。

II 国民所得統計及び予測

一、2013 年及び 2014 年の経済成長率の修正

国民所得は毎年 11 月に各種の最新調査及び関連資料に基づいて前 2 年の統計を修正する。2013 年及び 2014 年の経済成長率はそれぞれ + 2.20% (元数値より 0.03% ポイント下方修正)、+ 3.92% (元数値より 0.15% ポイント上方修正) となった

(一) 今回の修正は最新の工場情報校正、製造業の投資及び運営概況、営利事業所得税申告データ、国際収支、教育消費支出調査、家庭収支調査、卸売・小売・飲食レストラン業売上実況調査、上場・店頭会社の財務諸表など関連資料に基づいて 2013 及び 2014 年各四半期の統計の修正を検討した。

(二) 修正後の 2013 年の経済成長率は + 2.20% で、元数値 + 2.23% より 0.03% ポイント下方修正となった。GDP は 15 兆 2,307 億元 (95 億元上方修正、修正率 0.06%) に修正、2014 年の経済成長率は + 3.92% と元数値 + 3.77% より 0.15% ポイント上方修正した。GDP は 16 兆 974 億元 (134 億元の上方修正、修正率 0.08%) に修正した。

二、2015 年第 3 四半期の経済成長率 (速報値) 及び第 1、2 四半期の修正

2015 年第 3 四半期の実質 GDP の前年同期比成長率 (yoy) (速報値) は▲ 0.63%、季節調整後の対前期比成長率 (saqr) は▲ 0.30%、同年率換算値 (saar) は▲ 1.20% となった。第 1、2 四半期の yoy はそれぞれ + 4.04%、+ 0.57% に、saar はそれぞれ + 2.39%、▲ 4.50% に修正した。

(一) 2015 年第 3 四半期

1、外需面について

(1) 世界景気の回復力が弱含みとなり、電子製品の在庫消化速度が鈍化し、中国サプライチェーンの現地化による影響、原油など原材料価格の持続値下げの影響を受け、第 3 四半期の輸出 (米ドルベース)

は前年同期比▲ 13.87% (台湾元ベースは▲ 8.82%) となった。これは主に交通運輸設備を除いた貨物輸出が減少し、特に鉱産品 (石油、ディーゼル) の減少幅が 5 割近く、また大きなウェイトを占める電子製品の減少幅も▲ 7.91% まで拡大したことによるものである。一方、外国人観光客は増加し (+ 5.52%)、三角貿易 (台湾受注、中国出荷) 純利益は安定的に増加している。物価要因 (輸出物価指数▲ 4.61%) を控除した商品及びサービスの実質輸出は▲ 3.01% で、8 月時点の予測値▲ 0.39% より 2.62% ポイントの下方修正となった。

(2) 輸入は、農工原材料価格の下落、消費及び輸出の減少に伴う輸入需要の減少の影響を受け、第 3 四半期の商品輸入 (米ドルベース) は▲ 19.43% (台湾元ベースは▲ 14.77%) となった。物価要因 (輸入物価指数▲ 13.61%) を控除した商品及びサービスの実質輸入は▲ 2.24% となった (8 月予測値 + 1.64% より 3.88% ポイント下方修正)。

(3) 輸出と輸入を相殺した外需全体の経済成長率に対する寄与度は▲ 0.77 ポイントとなった。

2、内需面について

(1) 第 3 四半期は、小売業売上額は▲ 1.93% (2009 年第 3 四半期以来初めてのマイナス) となった。物価要因 (商品類 CPI ▲ 1.68%) を控除した実質成長もマイナスとなった。また、株取引高が▲ 14.38%、家庭支払いに伴う手数料も減少し、主要観光レジャーへの観光客数も▲ 7.92% となった。ただし、飲食レストラン業売上額は + 2.25% で、物価要因 (商品類 CPI 外食価格 + 1.73%) を控除した実質成長は微増となった。第 3 四半期の民間消費 (速報値) は + 0.50% (8 月予測値 + 2.94% より 2.44% ポイント下方修正) となり、経済成長率全体への寄与度は 0.27 ポイントとなった。

(2) 民間投資は、国内半導体業者が生産設備

を拡大し、鉄道・バイクなど大型運搬器具への投資増加から、第3四半期の資本設備輸入（台湾元ベース）は+15.11%となったものの、建設工程投資が引き続き減少していたことから、民間固定投資全体では+5.11%の成長となった。実質政府投資は▲5.96%、公営事業投資は▲6.30%、実質在庫調整は38億元減少となり、これらと併せた第3四半期の実質資本形成全体は前年同期比▲0.28%（8月予測値+0.04%より0.32ポイント下方修正）となり、経済成長率全体への寄与度は+0.07ポイントとなった。

(3)これらの各項目に政府消費▲0.44%を加えた第3四半期の内需全体の経済成長率は+0.15%、経済成長率全体への寄与度は+0.14ポイントとなった。

3、生産面について

(1)第3四半期の農業生産成長率は▲0.91%、工業生産成長率は▲3.17%となった。このうち、半導体の持続的な在庫調整、モバイルへの需要不振、及びパネル・鋼鉄などが中国業者の低価格競争により生産が引き続き減少していることから、第3四半期の製造業実質成長率は▲3.21%（経済部製造業生産指数▲4.69%）となり、経済成長率への寄与度は▲1.01ポイントとなった。電力供給は、生産稼働の減少及び平均気温が昨年同期より低かったことから供給が減少し、純発電量は▲5.13%となったため、電力及びガス供給業の実質成長率は同▲5.04%となり、経済成長率への寄与度は▲0.07ポイントとなった。

(2)サービス業については、卸売業売上額が対外貿易及び生産活動の持続的減少により同▲5.03%となった。小売業（売上額同▲1.93%）と併せた卸売小売業全体の実質成長率は同▲2.62%、経済成長率への寄与度は▲0.36ポイントとなった。金融業では、金融機関の利息収入純額が同▲0.99%、手数料収入が同+0.31%、店頭・上場株式取引高が同▲14.38%、

保険サービス及び投資信託の金融手数料と併せた金融保険の実質成長率は同▲0.40%、経済成長率への寄与度は▲0.03ポイントとなった。

(二)2015年第1四半期及び第2四半期は各項目の指標に基づいて修正を行った結果、前年同期比成長率（yoy）はそれぞれ+4.04%、+0.57%に修正し、2015年上半期の経済成長率は+2.26%となった。第3四半期と併せた1～3四半期の経済成長率+1.26%となった。

三、2015年第4四半期及び2016年の経済展望

(一)2015年第4四半期及び通年

2015年第4四半期の前年同期比成長率（yoy）は+0.49%（8月予測値より1.41ポイント下方修正）、外需の成長力が引き続き弱く、下方修正の主因となった。内需は、政府が44.1億元の「短期消費振興策」を打ち出し、政府消費を押し上げるほか、民間消費を刺激し（国家発展委員会の予測ではGDPを161億元増加させる見込み）、第1-3四半期の成長率と併せた2015年通年では+1.06%となり、8月時点の予測値より0.50ポイントの下方修正となる見込み。

1. 対外貿易

(1)世界経済が伸び悩み、IHSグローバルインサイトの11月の最新資料によると、2015年の世界経済成長率が+2.6%（7月予測値と横ばい）となる見込み。うち第4四半期は僅か+2.4%の微増（+0.3ポイントの下方修正）となり、台湾の輸出動力を抑制する見込み。また消費性電子製品の在庫の調整段階であり、中国大陸の生産過剰による低価格競争やサプライチェーン現地化の高まりが引き続き台湾の鋼鉄、石油化学、パネル及び半導体など関連業者の輸出量を引き続き減少させた。国際原料価格が依然として低水準で推移し、関連産品の名目輸出額を削減させた。

(2)今年に入り、米ドルベースの商品輸出のマイナス幅が次第に拡大し、第3四半期の米ドルベースの輸出は前期比▲13.87%となった。物価要因を控除した実質成長率は

▲ 3.43%となった。10月の輸出のマイナス幅が▲ 10.96%まで縮小したが、回復力が弱いことから、第4四半期予測は引き続き二桁のマイナスとなり、通年の米ドルベースの輸出は前年同期比▲ 10.16%となる見込み。サービス貿易を加え、物価要因を控除した2015年の輸出の実質成長率は+ 0.15%、輸入成長は+ 0.86%となる見込み。

2、民間消費

政府が「短期消費振興策」を打ち出しており、44.1億円の補助で、補助期間は2015年11月7日から2016年2月29日までとし、「政府の補助、企業のサポート、国民共同享有」により民間消費を刺激する狙いである。最近の民衆の申し込みに殺到する状況を観察すると、多くの効果は第4四半期に集中し、加えて昨年同期の食品安全問題の発生による基準値の低下から、2015年第4四半期の民間消費実質成長率(yoy)は第3四半期の+ 0.50%から+ 2.50%に上昇し、通年では+ 2.55%となる見込み。

3、固定投資

(1)国内半導体が主導する資本収支の下方修正、建設投資も不動産市場の不況により引き続き弱くなることから、2015年第4四半期の民間投資実質成長率は+ 2.26%(1.88%ポイントの下方修正)、通年では+ 2.02%となる見込み。

(2)公共投資について、2015年の政府投資は多くの大型建設予算の執行が既にピークを過ぎており、2015年の政府投資の名目額は4,417億元(▲ 4.60%)となる見込み。また、公営事業投資の名目額は1,933億元(▲ 8.70%)となる見込み。

(3)物価要因を控除した2015年の固定投資実質成長率は+ 0.93%となる見込み。

4、物価

最近の国際石油価格及び農工原材料価格が引き続き下落し、2015年第4四半期のOPECバスケット原油価格は1バレル=45.3米ドル(8月予測より▲ 10.1米ドル下方修正)と設定し、加えて今年に入り日

本円、ユーロの対米ドルレートが大幅に下落し(1-10月平均はそれぞれ▲ 14.25%、▲ 17.17%)、台湾元レートの下落幅(▲ 4.69%)が比較的にかさかったことから、2015年の卸売物価指数(WPI)は▲ 8.40%となる見込み(▲ 1.07%ポイントの下方修正)。CPIは、燃料費が昨年に比べ低水準に推移し、電気料金が新計算方式により下がったことから、2015年は▲ 0.31%(▲ 0.12%ポイントの下方修正)となる見込み。

(二)2016年

2016年を展望すると、国際機構が来年の世界経済予測について下方修正を行うのに伴い、輸出・内需とも8月予測値を下回るものの、今年と比較した国際景気の回復に加え、国内公共支出の増加などから、2016年の経済成長率は同+ 2.32%(8月予測値より0.38%ポイントの下方修正)と今年(+ 1.06%)を上回る見通し。

1. 国際情勢

(1)IHSグローバルインサイトの11月予測によると、2016年の世界経済成長率は+ 2.9%(0.4%ポイントの下方修正)と5年連続3%台を下回った。先進経済国の景気が緩やかに拡大し、+ 2.2%(0.2%ポイントの下方修正)に成長。新興経済国の経済は同+ 4.0%(0.6%ポイントの下方修正)と上昇するものの、世界金融市場の変動及び非経済的リスクの高まりなどの影響を受け、経済の不確定要素が高まっている。

(2)米国の民間消費が安定した成長となり、住宅投資が増加し、内需成長が堅調で、今後、在庫消化の終了及び就労市場の持続的改善により、経済が安定した成長を維持できることから、2016年は同+ 2.9%(0.2%ポイント下方修正)となる見通し。

(3)EU諸国は難民問題及びテロ問題を抱えているものの、金融緩和政策、ユーロレートの下落、及び石油価格の下落などプラスの要因により、経済は緩やかな回復を延長できることから、2016年は同+

	商品貿易年増率 (通関ベース、%)		貿易黒字 (億米ドル)	商品・サービス貿易の実質 成長率(台湾元ベース%)		商品・サービ ス貿易収支 (億米ドル)
	輸出	輸入		輸出	輸入	
2012年	▲2.30	▲3.90	307	0.41	▲1.78	381
2013年(r)	1.41	▲0.21	355	3.5	3.4	476
2014年(r)	2.7	1.53	397	5.91	5.65	549
2015年(f)	▲10.16	▲15.96	515	0.15	0.86	691
第1期(r)	▲4.18	▲14.96	134	6.13	2.87	176
第2期(r)	▲9.83	▲14.91	123	▲0.74	3.43	154
第3期(p)	▲13.87	▲19.43	128	▲3.01	▲2.24	170
第4期(f)	▲12.23	▲14.38	130	▲1.09	▲0.37	192
2016年(f)	1.97	0.98	548	4.74	4.25	727

1.9% (0.1%ポイントの下方修正) に上昇する見通し。

(4)中国大陸は経済構造の調整及び過剰生産の淘汰が持続し、成長力が頭打ちとなることから、2016年は+6.3% (横ばい) となる見通し。韓国、香港及びシンガポールはそれぞれ+2.5%、+2.3%、+2.0%となる見通し。

2. 対外貿易

来年を展望すると、世界の経済成長率は今年の+2.6%から+2.9%に上昇し、また国際通貨基金(IMF)予測によると、世界の貿易量は+3.2%から+4.1%に増加する。加えて産品の在庫が次第に正常水位に戻り、国内半導体製造業が引き続き製造の先端優勢の恩恵を受けており、また今年の数値が低かったことから、輸出が増勢に転じる可能性が高い。ただし、中国大陸のサプライチェーンの現地化により国際産業間の競争が激しくなり、輸出の不確定性要素が高く、2016年の米ドルベースの輸出(税関ベース)は前年比+1.97%となる見通し。

また輸入は、輸出及び内需の増加に伴う輸入需要の増加により同+0.98%となる見通し。商品及びサービス貿易を合計し、物価要因を控除した2016年の輸出及び輸入の実質成長率はそれぞれ+4.74%、+4.25%となる見通し。

3. 民間消費

	民間消費名目金額 (億元)		実質成長率 (%)
	金額	年増率(%)	
2012年	80,351	3.03	1.82
2013年(r)	82,484	2.65	2.34
2014年(r)	85,809	4.03	3.33
2015年(f)	87,382	1.83	2.55
第1期(r)	21,630	3.10	3.73
第2期(r)	21,664	2.40	3.55
第3期(p)	21,995	▲0.31	0.50
第4期(f)	22,093	2.24	2.50
2016年(f)	89,356	2.26	1.76

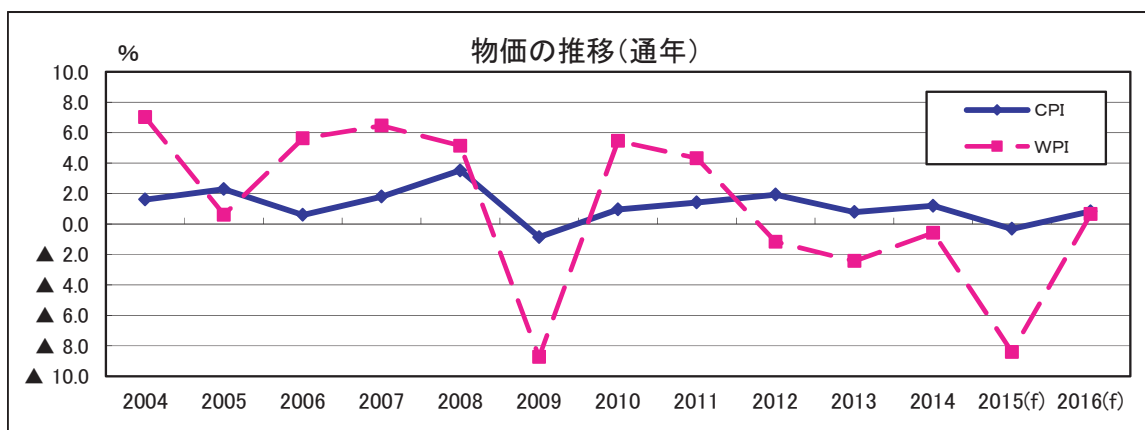
短期消費振興策の終了及び今年の景気不振が続く影響を受け、民間消費の成長が限られることから、2016年の実質成長は+1.76%となる見通し。

4. 固定投資

(1)先端製造工程優勢の維持、IOT(モノのインターネット)やスマート応用の新たな商機、半導体及び関連業者の投資の持続、航空業者による引き続き航空機の購入の拡大があるものの、建設投資が保守的となり、成長力を抑制していることから、2016年民間投資実質成長率は同+0.97%となる見通し。

(2)公共投資について、2016年は拡張的な財政政策をとり、名目額が4,543億元(+2.85%増)と2010年以来のプラス成長となり、また2016年の公営事業名目投

	固定投資名目金額(億円)			固定投資実質成長率(%)				
		民間	政府	公営事業	民間	政府	公営事業	
2012年	32,821	25,670	5,110	2,041	▲2.61	▲0.35	▲10.95	▲7.42
2013年(r)	33,787	26,859	4,925	2,004	5.30	7.09	▲2.79	2.99
2014年(r)	34,842	28,095	4,630	2,117	1.76	3.17	▲7.36	5.31
2015年(f)	34,512	28,162	4,417	1,933	0.93	2.02	▲2.53	▲6.06
第1期(r)	8,420	7,302	837	281	▲0.44	1.33	▲1.32	▲30.02
第2期(r)	8,473	6,918	1,071	484	0.60	▲0.64	0.60	21.83
第3期(p)	8,948	7,482	1,044	422	3.10	5.11	▲5.96	▲6.30
第4期(f)	8,671	6,461	1,464	746	0.35	2.26	▲2.86	▲8.11
2016年(f)	34,853	28,319	4,543	1,992	1.45	0.97	3.60	3.60



資も1,992億円(+3.05%)に拡大することから、民間投資と併せ、物価要因を控除した2016年固定投資全体は同+1.45%となる見通し。

5、物価

2016年の国際石油価格の下落が持続しているため、1バレル=51.0米ドル(3.3

米ドル下方修正)と今年と変わらない見込み。2016年の卸売物価指数(WPI)は+0.67%、CPIは+0.84%となるものと予測。

(以上)

重要経済指標

行政院主計処 2015年11月27日発表

	経済成長率(実質GDP)(%)			一人当たりGDP		一人当たりGNP		消費者物価 上昇率 (%)	卸売物価 上昇率 (%)	名目GDP (百万台湾元)
	前年 同期比	前期比 (年率換算)	前期比	台幣元	米ドル	台幣元	米ドル			
2003年	4.12	-	-	486,018	14,120	500,594	14,544	▲0.28	2.48	10,965,866
2004年	6.51	-	-	514,405	15,388	530,835	15,879	1.61	7.03	11,649,645
2005年	5.42	-	-	532,001	16,532	544,798	16,930	2.30	0.61	12,092,254
2006年	5.62	-	-	553,851	17,026	567,508	17,446	0.60	5.63	12,640,803
2007年	6.52	-	-	585,016	17,814	599,536	18,256	1.80	6.47	13,407,062
2008年	0.70	-	-	571,838	18,131	585,519	18,564	3.52	5.14	13,150,950
2009年	▲1.57	-	-	561,636	16,988	579,574	17,531	▲0.86	▲8.73	12,961,656
2010年	10.63	-	-	610,140	19,278	628,706	19,864	0.96	5.46	14,119,213
2011年	3.80	-	-	617,078	20,939	633,822	21,507	1.42	4.32	14,312,200
2012年	2.06	-	-	631,142	21,308	650,660	21,967	1.93	▲1.16	14,686,917
2013年(r)	2.20	-	-	652,429	21,916	670,585	22,526	0.79	▲2.43	15,230,739
2014年(r)	3.92	-	-	687,816	22,648	707,875	23,308	1.20	▲0.57	16,097,400
第1季(r)	3.66	0.21	0.05	164,973	5,434	172,261	5,674	0.80	0.07	3,857,600
第2季(r)	4.15	6.73	1.64	167,561	5,556	172,716	5,726	1.63	0.68	3,919,678
第3季(r)	4.26	5.13	1.26	174,736	5,814	178,908	5,951	1.51	0.01	4,090,204
第4季(r)	3.63	0.91	0.23	180,546	5,844	183,990	5,957	0.84	▲3.02	4,229,918
2015年(f)	1.06	-	-	713,215	22,355	734,644	23,026	▲0.31	▲8.40	16,733,853
第1季(r)	4.04	2.39	0.59	178,164	5,640	185,942	5,886	▲0.59	▲8.51	4,176,433
第2季(r)	0.57	▲4.50	▲1.14	172,757	5,575	176,391	5,692	▲0.70	▲9.41	4,052,079
第3季(p)	▲0.63	▲1.20	▲0.30	178,728	5,549	184,181	5,718	▲0.26	▲9.50	4,193,890
第4季(f)	0.49	6.55	1.60	183,566	5,591	188,130	5,730	0.31	▲6.11	4,311,451
2016年(f)	2.32	-	-	731,759	22,228	754,168	22,909	0.84	0.67	17,212,960
第1季(f)	1.27	3.95	0.97	180,810	5,492	188,391	5,723	1.40	▲1.01	4,249,842
第2季(f)	2.57	1.31	0.33	178,346	5,418	182,819	5,553	0.80	0.81	4,193,953
第3季(f)	3.01	1.10	0.27	184,219	5,596	189,914	5,769	0.42	1.55	4,334,190
第4季(f)	2.40	3.18	0.79	188,384	5,722	193,044	5,864	0.77	1.41	4,434,975

r: 修正値、p: 速報値、f: 予測値

内需・外需寄与度 (对前年同期比)

(单位: %)

	GDP	国内需要						固定资本形成						国外需要								
		民间消费			政府消费			民间投资			公益事业投资			政府投资			输出			输入		
		成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度
2007	6.52	1.83	1.38	2.42	1.33	2.20	2.20	0.32	1.14	0.28	1.88	0.35	2.20	0.03	▲0.11	5.14	10.45	6.87	2.89	2.89	1.73	
2008	0.70	▲2.44	▲2.24	▲1.69	▲0.91	1.54	0.22	▲1.13	▲11.13	▲2.66	▲14.15	▲2.64	▲1.98	▲0.03	0.44	2.94	0.55	0.39	▲4.13	▲4.13	▲2.55	
2009	▲1.57	▲4.51	▲4.25	0.01	0.01	3.22	0.49	▲8.81	▲2.04	▲2.04	▲15.32	▲2.66	2.37	0.04	14.07	2.68	▲8.42	▲5.91	▲13.22	▲13.22	▲8.59	
2010	10.63	10.29	9.56	3.76	2.08	1.05	0.17	19.31	4.12	4.12	27.63	4.13	7.49	0.13	▲0.13	1.07	25.67	15.50	28.03	28.03	14.44	
2011	3.80	0.57	0.53	3.12	1.65	1.95	0.29	▲1.15	▲0.27	▲0.27	1.20	0.21	▲13.44	▲0.24	▲5.78	3.27	4.20	2.98	▲0.46	▲0.46	▲0.29	
2012	2.06	0.63	0.59	1.82	0.99	2.16	0.33	▲2.61	▲0.61	▲0.61	▲0.35	▲0.06	▲7.42	▲0.11	▲10.95	1.47	0.41	0.30	▲1.78	▲1.78	▲1.18	
2013(r)	2.20	2.03	1.88	2.34	1.28	▲0.79	▲0.12	5.30	1.18	1.18	7.09	1.24	2.99	0.04	▲2.79	0.32	3.50	2.46	3.40	3.40	2.14	
I (r)	1.46	1.96	1.89	0.92	0.55	▲0.02	▲0.01	6.51	1.45	1.45	7.88	1.47	18.59	0.17	▲6.67	▲0.43	4.14	2.87	5.18	5.18	3.30	
II (r)	2.51	0.85	0.80	2.43	1.34	▲1.67	▲0.26	5.52	1.25	1.25	8.20	1.46	3.22	0.04	▲7.10	1.71	4.62	3.27	2.43	2.43	1.56	
III (r)	1.47	0.88	0.81	1.71	0.92	▲0.41	▲0.07	1.54	0.35	0.35	3.30	0.60	▲11.12	▲0.13	▲3.34	0.66	1.74	1.23	0.90	0.90	0.57	
IV (r)	3.31	4.44	3.95	4.32	2.23	▲0.99	▲0.15	7.81	1.70	1.70	9.40	1.46	4.84	0.10	3.42	▲0.64	3.61	2.56	5.22	5.22	3.20	
2014(r)	3.92	3.56	3.24	3.33	1.80	3.55	0.52	1.76	0.39	0.39	3.17	0.56	5.31	0.07	▲7.36	0.69	5.91	4.10	5.65	5.65	3.42	
I (r)	3.66	2.52	2.33	2.61	1.45	3.93	0.57	2.30	0.51	0.51	3.06	0.53	14.78	0.17	▲8.30	1.33	4.38	3.03	2.90	2.90	1.69	
II (r)	4.15	3.66	3.32	3.62	1.96	2.56	0.37	1.87	0.41	0.41	4.55	0.81	▲14.17	▲0.18	▲7.30	0.82	5.09	3.56	4.55	4.55	2.74	
III (r)	4.26	4.87	4.41	4.26	2.30	3.64	0.53	3.34	0.74	0.74	4.50	0.79	19.96	0.22	▲8.53	▲0.15	7.54	5.21	8.94	8.94	5.36	
IV (r)	3.63	3.15	2.84	2.81	1.49	4.04	0.61	▲0.36	▲0.07	▲0.07	0.36	0.12	5.76	0.07	▲6.01	0.79	6.44	4.49	6.14	6.14	3.70	
2015(f)	1.06	1.63	1.46	2.55	1.36	▲0.65	▲0.09	0.93	0.20	0.20	2.02	0.35	▲6.06	▲0.08	▲2.53	▲0.40	0.15	0.11	0.86	0.86	0.51	
I (r)	4.04	1.71	1.56	3.73	2.06	▲2.71	▲0.39	▲0.44	▲0.10	▲0.10	1.33	0.25	▲30.02	▲0.32	▲1.32	2.48	6.13	4.20	2.87	2.87	1.71	
II (r)	0.57	3.51	3.14	3.55	1.90	0.54	0.08	0.60	0.13	0.13	▲0.64	▲0.12	21.83	0.23	0.60	▲2.57	▲0.74	▲0.53	3.43	3.43	2.05	
III (p)	▲0.63	0.15	0.14	0.50	0.27	▲0.44	▲0.06	3.10	0.67	0.67	5.11	0.90	▲6.30	▲0.07	▲5.96	▲0.77	▲3.01	▲2.12	▲2.24	▲2.24	▲1.35	
IV (f)	0.49	1.22	1.09	2.50	1.30	▲0.13	▲0.03	0.35	0.08	0.08	2.26	0.35	▲8.11	▲0.17	▲2.86	▲0.60	▲1.09	▲0.78	▲0.37	▲0.37	▲0.18	
2016(f)	2.32	1.66	1.44	1.76	0.92	1.68	0.23	1.45	0.30	0.30	0.97	0.16	3.60	0.04	3.60	0.88	4.74	3.07	4.25	4.25	2.19	
I (f)	1.27	1.65	1.43	1.68	0.85	2.60	0.37	1.24	0.27	0.27	0.66	0.08	11.14	0.10	2.62	▲0.16	1.05	0.68	1.66	1.66	0.83	
II (f)	2.57	0.63	0.49	1.38	0.70	1.16	0.16	0.89	0.17	0.17	0.73	0.11	0.03	0.00	2.33	2.08	5.30	3.43	3.01	3.01	1.36	
III (f)	3.01	2.17	1.88	2.30	1.21	1.49	0.21	0.83	0.14	0.14	▲0.04	▲0.06	3.33	0.04	5.92	1.14	7.96	5.16	7.71	7.71	4.02	
IV (f)	2.40	2.18	1.93	1.68	0.91	1.55	0.20	2.83	0.60	0.60	2.71	0.49	3.32	0.02	3.40	0.47	4.56	2.95	4.53	4.53	2.48	

(出所) 行政院主計處 2015年11月27日發表 r: 修正値, p: 速報値, f: 予測値

内需・外需寄与度 (対前期比、年率換算)

(単位：%)

	GDP	国内需要				国外需要	
		民間消費	政府消費	固定資本形成	輸出	輸入	
2012							
I	10.54	12.20	7.57	4.76	31.23	▲2.34	▲1.44
II	▲0.63	3.25	▲0.14	4.19	11.27	0.72	6.66
III	6.94	0.94	2.78	▲5.64	1.10	15.34	7.07
IV	0.93	▲3.41	▲2.13	4.81	▲11.47	1.08	▲5.08
2013							
I	▲1.08	7.98	4.71	▲4.87	26.55	▲0.35	13.10
II	4.03	▲1.63	3.28	▲0.38	▲13.22	5.11	▲2.94
III	3.18	1.11	1.43	▲2.16	2.56	2.07	▲1.03
IV	6.08	9.56	7.52	0.36	21.33	5.46	10.43
2014							
I	0.21	1.68	▲1.34	20.28	▲1.97	3.57	6.35
II	6.73	1.54	4.62	▲6.86	0.02	11.25	3.96
III	5.13	8.42	5.11	4.14	19.93	9.84	15.70
IV	0.91	▲0.95	0.67	0.96	▲5.88	1.63	▲0.99
2015							
I (r)	2.39	▲1.90	5.67	▲7.03	▲15.48	0.99	▲5.45
II (p)	▲4.50	7.45	0.63	4.02	29.05	▲14.82	▲0.17
III (f)	▲1.20	▲2.29	▲0.63	1.45	▲8.43	1.68	0.42
IV (f)	6.55	3.80	6.96	4.13	▲3.84	9.44	5.63
2016							
I (f)	3.95	▲0.16	▲0.32	0.23	▲1.97	8.80	2.28
II (f)	1.31	2.71	1.92	1.00	5.93	4.39	7.64
III (f)	1.10	2.04	0.48	1.14	6.71	7.25	10.54
IV (f)	3.18	3.06	3.04	1.59	4.08	▲0.77	▲1.95

(出所) 行政院主計処 2015年11月27日発表 r: 修正値、p: 速報値、f: 予測値
 (注) ▲はマイナス。外需のマイナス (▲) の寄与度は、GDP に対してはプラスの寄与度となる。

2015年第3四半期国際収支を公表

中央銀行は、11月20日、2015年第3四半期の国際収支統計を公表した。主な内容は、下記のとおり。

1. 概要

2015年第3四半期の国際収支によると、経常収支が196.7億米ドルの黒字、金融収支が161.5億米ドルの流出超、総合収支が56.9億米ドルの黒字（中央銀行準備資産の増加）となった。

たものの、貿易収支及び所得収支の黒字が増加するとともに、経常移転収支の赤字が微減したことから、経常収支は、前年同期比45.1億米ドルの増加（+29.8%）となった。

2. 内訳

(1) 経常収支について

世界景気の回復が減速し、国際石油価格が引き続き低水準で推移し、電子製品の在庫消化が鈍化していることから、第3四半期の輸出は前年同期比▲13.8%となった。輸入は、石油価格の低迷及び輸出の減少に伴う輸入需要の減少、農工原材料の輸入減少により同▲21.4%となった。輸入の減少幅が輸出の減少幅を上回ったことから、貿易収支は、前年同期比39.8億米ドル増加し、142.6億米ドルの黒字となった。

サービス収支は前年同期比2.4億米ドル減少し、22.5億米ドルの黒字となった。これは主に、国際貨物運搬の収入の減少によるものである。

所得収支は、非居住者による直接投資所得が減少したため、前年同期比7.3億米ドル増加し、39.7億米ドルの黒字となった。

経常移転収支は赤字が前年同期比0.4億米ドル微減し、8.1億米ドルの赤字となった。

このように、サービス収支の黒字が減少し

(2) 金融収支について

直接投資及び証券投資が、それぞれ33.2億米ドル、226.6億米ドルの流出超となった。このうち証券投資については、居住者による対外証券投資が、保険会社による海外証券・債券への投資増加により141.3億米ドルの流出超となった。非居住者による対内証券投資は、外資による株式・債券への投資減少等により85.3億米ドルの流出超となった。

この他、金融派生商品は12.1億米ドルの流出超、その他投資は銀行部門による海外預金の減少により、110.4億米ドルの流入超となった。

2015年第1～3四半期の累計では、経常収支が580.6億米ドルの黒字、金融収支が507.9億米ドルの流出超、総合収支は136.7億米ドルの黒字（中央銀行準備資産の増加）となった。

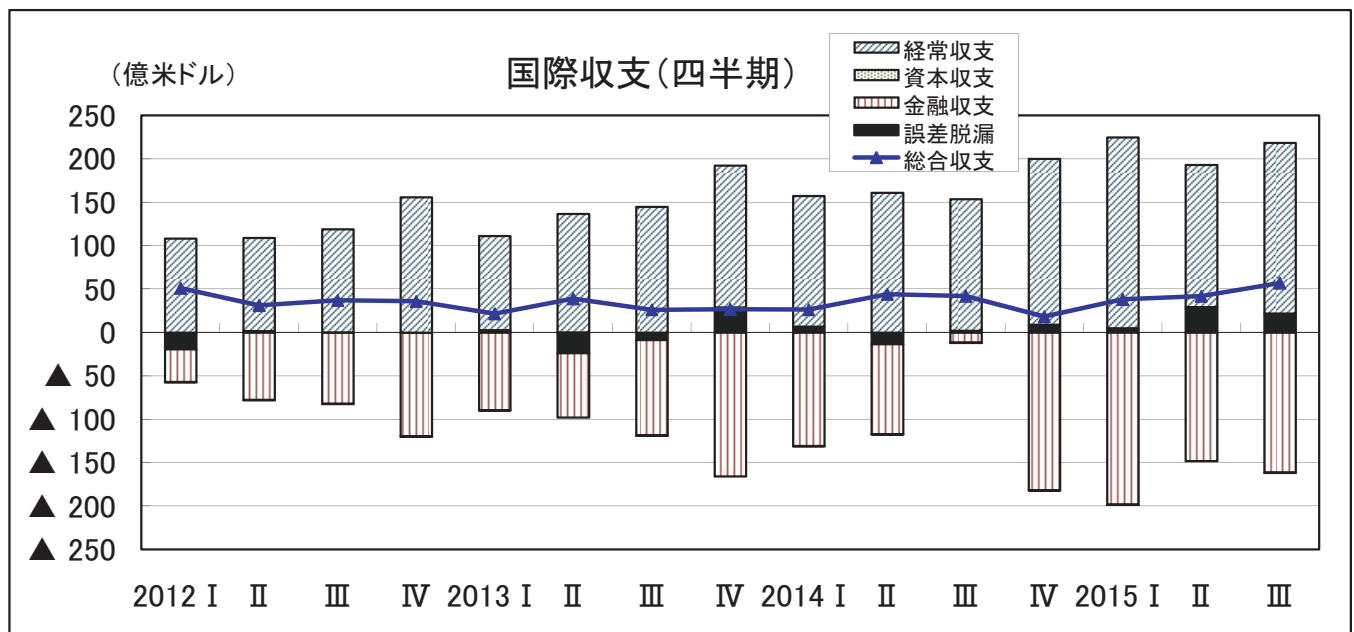
(注) 台湾と日本では、国際収支統計の項目が一部異なっており、台湾における「金融収支」は、日本の国際収支統計の「投資収支」に相当するもの。

国際収支の推移

(単位：億米ドル)

	2011	2012	2013	2014(r)	2015						
					I	II	III (r)	IV	I (r)	II (r)	III (p)
経常収支	399.1	490.2	553.1	654.2	150.6	161.0	151.6	191.1	220.1	163.8	196.7
貿易収支	265.5	299.2	354.5	415.3	68.7	102.1	102.7	141.8	140.7	130.4	142.6
輸出	3,059.9	2,990.5	3,032.3	3,114.5	727.5	795.0	806.4	785.7	698.3	717.9	695.4
輸入 (▲)	▲2,794.5	▲2,691.4	▲2,677.8	▲2,699.2	▲658.9	▲692.9	▲703.6	▲643.9	▲557.7	▲587.6	▲552.8
サービス収支	38.8	64.2	86.2	112.3	29.6	27.3	24.9	30.5	29.0	17.8	22.5
所得収支	131.8	153.0	142.4	154.6	56.1	39.9	32.4	26.1	57.7	27.5	39.7
移転収支	▲36.9	▲26.2	▲30.0	▲27.9	▲3.8	▲8.4	▲8.5	▲7.3	▲7.3	▲11.8	▲8.1
資本収支 (▲)	▲1.2	▲0.8	0.1	▲0.8	▲0.2	▲0.1	▲0.2	▲0.3	▲0.3	0.0	▲0.1
金融収支 (▲)	▲320.3	▲316.5	▲439.2	▲527.7	▲130.9	▲103.5	▲111.7	▲181.7	▲198.2	▲148.1	▲161.5
直接投資 (▲)	▲147.2	▲99.3	▲106.9	▲98.7	▲21.8	▲31.6	▲21.1	▲24.2	▲18.4	▲42.3	▲33.2
証券投資 (▲)	▲356.9	▲420.9	▲288.3	▲442.2	▲67.7	▲9.0	▲223.6	▲142.1	▲95.4	▲105.1	▲226.6
デリバティブ (▲)	10.4	3.3	7.7	2.8	1.3	1.7	2.4	▲2.6	▲7.3	1.0	▲12.1
その他 (▲)	173.5	200.4	▲51.6	10.3	▲42.7	▲64.7	130.6	▲12.9	▲77.1	▲1.7	110.4
誤差脱漏 (▲)	▲15.2	▲18.1	▲0.8	4.5	6.7	▲13.5	2.1	9.1	4.8	29.2	21.8
中銀準備資産変動 (▲)	▲62.4	▲154.8	▲113.2	▲130.2	▲26.2	▲43.9	▲41.8	▲18.2	▲38.1	▲41.7	▲56.9

(出所) 2015.11.20 中央銀行発表 r : 修正値 p : 速報値



～日本語俳句と外国語俳句～

呉昭新 (医師・俳人)

11月号では台湾俳句での季題・季語、歳時記が確立するまでをご紹介致しましたが、今月号では、日本占領下と戦後の状況下に翻弄されつつも乗り越え、俳句が台湾の俳句として定着してきた歴史をご紹介します。

5. 跨言語世代の俳句：

話は戻って、一夜にして文盲になった文芸作家や愛好家達のうちで、筆を捨てた人もあったが、また多くの人が筆を握り直して新しい言語に一から挑戦した、そして多くの人たちがその障害を克服したのだ、いわゆる跨言語世代の人たちであった。詹冰、巫永福、陳千武、林亨泰、傅彩澄、蕭翔文らは俳句界における二刀流の使い手である。別に黄靈芝は日本語の俳句を主に、後に漢語俳句をも詠むが、彼が俳句を詠み始めたのは戦後でありまた戦後台湾唯一の俳句結社の主宰である。

(以下黄靈芝、詹冰と朱実について個別に述べるが、紙面制限のため、詳細なる記述はネット版をご参考下さい、<http://oobooshingo.blogspot.tw/2014/12/blog-post.html>。また黄氏と台北俳句会の部分は本誌6月号をもご参照下さい。)

a) 黄靈芝と台北俳句会：

跨言語世代に居座りながら、いまだに日本語を使う人々を台湾の「日本語族」と研究者たちは呼んでいる。なかんずく、これら「日本語族」の一人である黄靈芝は1928年生れで本名黄天驥、日本人よりも造詣の深い日本語を駆使して俳句に馴染んでいるのである、そして1970年以来43年間、戦後唯一の組織ある日本語俳句結社「台北俳句会」の主宰でもある。

周知のように、当時の台湾は国民党政府の戒厳令の下で、結社どころか、日本語に関する資料の流通さえも禁止されていた。それにもかかわらず、黄氏は台湾で日本語の俳句会を創設した。当時の状況の厳しさは、俳句会の命名からも一端が伺える。メンバーは台北だけではなく、台中、台南にも多く、全島に及ぶのに、どうして「台北俳句会」と名乗ったのか。このことについて、主宰の黄靈芝氏は、「実質的には会員が全島に跨り、『台湾俳句会』であるべきだったが、当時「台湾」の二字には反国思想の嫌疑がまことしやかにかけられやすかったため、殊更にこれを避けたのであった」と説明している。黄氏の俳句について特記するところは正式に師匠を持っていない事で、すべて自習によるものであることである。終戦後大学に入学したものの、間もなく肺を患って休学せざるを得なかった。その後咯血などを経験しながら、長い間肺結核の養生の途にあった。かれは不幸のようでその実幸運児であった。かれは台南で一二を争う大資産家の末っ子で上には八人の兄弟姉妹がいた、終戦後二年で相次いで母と父を亡くしたが、同時に残された膨大な資産と骨董玉石、加えるに天賦の芸術の資才、彼は日本に送還される日本人の蔵書家の膨大な蔵書(荷車二台、千冊近く)を一括して買収し得たのだ。私が想定するに彼は病床にあってこれら知的財産を全部精読、その真髓を吸収し、すべてを物にしたと(自

分では乱読したと言っている)。玉石に関する能力も家蔵の骨董玉石からの実際経験と書籍からの知識によるものと思う。彼の小説にはよく金銀玉石が出てくる、また博物館の玉石の解説もされている。彼の芸術に関する天賦の才に加えるに、資産が彼の今日をあらしめたのだ。彼の博識多才はその著述と句評の内容からも窺い知れる。彼の句作や小説の真髓内容を本当に了解するには、彼の一般に知られる出自の他に彼の生い立ち環境をよく知らなければならない、私の知る限り彼の作品に関する今までの一般の解釈はまだまだ足りないところがある。惜しむらくは、「台北俳句集」と黄氏の創作のほとんどが自家出版であるため日本ばかりでなく、台湾でも知るものもまれである。貴重な文献がみすみすなくなるのを見るに忍びず、私が入会后、40周年記念集は私自身でスキャンして個人のウェブに載せた(2012年の末、若い人が幹事になったあとはネットでも作品が読めるようになったようだ)。2011年の末から黄氏の健康が思わしくなり、会に出席するのも無理になり、2013年には会の世話役も高齢のため日本留学帰りの若いかに幹事の役を引き渡した。若い方は新しい媒体のツールが使えるゆえ、句会の事務のやり取りも便利、迅速になったが、主人のいない家はやはり寂しい、なんとか在台、在日日本人に助けを借りて維持しようとはがいている模様だが、当初からみんなが心配していた日が迫って来たようだ。日本人が主になるようなことになったら、それは真の台湾俳句会ではなく日本語習得の場でしかなく、または日本人懇親のクラブのかたちになってしまい、そこに参加する台湾人は日本語練習のための参加であり、台湾俳句会の意義をなさない。

b) 詹冰：

ここで提起したいのは詹冰である。詹冰本名は詹益川(1921~2004)、中学生時代から詩が好きで、

台中一中在学中にすでに俳句募集に応じて受賞していた。東京の明治薬専に学び薬剤師になったが、留学中に大いに詩作に励み、その間堀口大学にも文面で教えに預かった。1944年帰台後まもなく国籍転換に遭い、詩作に使い慣れた日本語から華語に切り替えざるを得なかったが、よく困難を克服して、亡くなるまで華語で詩作を続け多くの児童詩や新詩を残した。ここで特記したいのは彼が漢字十字で漢語俳句を詠んで、それを「十字詩」と名づけたことである。生前彼は評論家莊紫蓉の詹冰訪談録において日本の俳句を翻訳したのが十字詩だと、そしてどう違うかと問われたとき：「詩境に違いはなく、詠みおわっていない部分は山水畫の留白に相当し多くの想像空間を残している、これが十字詩だ、私は300句を越す十字詩を詠んでいるが発表されたのは100句あまりだけ」だと答えている。よく俳句の本質をわきまえているゆえ、漢字新詩型の「漢俳」を俳句と見なすようなことはなかった。

c) 朱実(瞿麦)：

朱実は台中一中の学生で文学青年、張彦勳、許世清らとともに1942年文芸団体を発起し、1944卒業間際に会の名を「銀鈴会」ときめ、会誌「ふちくさ」を刊行し、詩、童謡、短歌や俳句創作などが発表された。言語は、初めは日本語であったが1945年に時代が変わると中国語に変わったが、1949年4月「四六事件」で当局による手入れが入るとメンバーは散りぢりばらばらになり、ある者は捕らえられ、果ては銃殺されるものもいた、またある者は島内や中国へと逃げのびたのである。当時台湾師範学院(後の師範大学)の三年生であった朱実は機敏で逸早く身の危険を悟り、中国に逃げきった一人で、後に中国で文学活動に従事し、俳句や漢俳の発展に貢献した。彼は中国では別の名を使っていた、瞿麦こと朱実である。周恩来が日本を訪れたとき翻訳をつとめたのも彼だった。

「北京週報日本語版」2008年6月20日に彼の紹介記事が載っている：「1992年4月、日本の伝統俳句協会の一行40数名が伊藤柏翠副会長の引率のもと、瞿麦氏を副団長兼講師として北京、西安、桂林を訪れた。観光後、上海の花園飯店で「中日友好漢俳・俳句交流会」と銘打った催しが行われた。上海の著名な文化人である杜宣、羅洛、王辛笛の各氏ら数十名が参加し、各自が自分の作品を吟じた。これは、中日初の漢俳・俳句交流会であり、また同時に漢俳・俳句集『杜鵑声声（ホトトギス）』を出版して中日の漢俳・俳句交流に新たなページを切り開くものでもあった。日本航空は毎年、「世界こどもハイクコンテスト」を開催しており、すでに10回を迎えるとともに特集本も出版された。瞿麦氏は、中国地区でこどもハイクの評価・選考にあたり、選考した漢俳をハイクに訳して日本航空の審査会へ送る責任者となった。彼は招聘されて日本の国際俳句協会の評議員にもなった。中国の子どもの漢俳に対する興味と愛好を培うため、彼は上海少年宮へたびたび出向き、コンテストに参加する児童を指導したため、上海の子どもらの漢俳は群を抜いており、賞を獲得している。（中略）瞿麦氏が中日の漢俳・俳句交流の道を切り開いたことは、中日文化交流史上に輝かしい1ページを留めることだろう。」

http://japanese.beijingreview.com.cn/yzds/txt/2008-06/18/content_128412_2.htm

朱実は1994年に一度台湾へ帰ったきたことがある、そしてかつての「銀鈴會」の舊友たちに会った、旧友の蕭翔文は日文短歌同人誌「たんがら」に一文を残した。他はまた日本においても、早稲田大學、神戸學院大學、二松學舎大學、岐阜經濟大學中國文學の客座教授の座にあった。彼はまさに激動の世界の渦の中に身を投じた、台湾の跨言語世代が世界俳句界に送りだした台湾、中国、日本三国にまたがる台湾出身の俳人なのだ。彼の俳句に：

半世紀時空を越えて秋思かな
長かりシタイムトンネル時計草かな
の句がある。

(三) 外国語俳句 (HAIKU、漢語俳句)、ネット俳句：

戦前、日本語短詩文芸の教養を獲得し、戦後の言語の推移に馴染めなかった台湾人は「日本語族(人)」となり、その一小部分が日本語短歌、俳句創作に籍を置くことになったのだが、若き日に覚えた日本語にノスタルジアがあっただけなのか私にはわからない。思うに日本の俳句結社と同じではないかと。只暇をもてあましての言葉遊びで句会に参加しているのか？というものもある。

歌人そして俳人の呉建堂（孤蓬万里、台湾万葉集の編者）は確かに詩才の天賦に恵まれ、詩人の性格が普段の言行からはっきりと感じられ、誰も疑う人はない。呉建堂には私だけしか知らない逸話がある。彼は歳も医学も私の4年先輩である、1982年のある日、突然院長室に私を訪ねてきた。彼は当時基隆市立病院の院長で私は台湾省省立台北病院の院長だった。彼とは面識がなかったが、同業なるゆえ院長室へお通ししたのだが、彼の発言にはびっくりさせられた。彼はいう：「あなたの今の院長職を僕に譲らないか」と。私はあっけとられて返す言葉も出ませんでした。こんな常識外れの要求に答えられる筈はなかった。なんとかうまく話して返したものの、彼のこのような単刀直入、ぶっきら棒な性格はよく詩人の性格を表わしているものと後日了解することができた。私のような凡人には真似さえできない言行なのだ。当時私は彼が歌人また剣道8段の達人であることを知る由もなかった。尊敬すべき天賦の詩人である。

さて日本語の俳句でなければ何語で詠むか？当然台湾語か台湾の公用語である台湾中国語（台湾国語、日本の外国語大学では中国の普通語と区別

している)となる。時の流れについて黄氏も漢語俳句を創作した。さすがは俳句の真骨頂を会得した黄氏であった。それゆえ漢語(台湾語、台湾国語)での創作も俳句の本質から外れてはいなかった。真の漢語俳句である。ただ惜しむらくは季語を必要とすることに拘ったことである。しかし黄氏のある季語には夏石氏のキーワードの匂いがある。それは世界俳句に通ずる道であり真の HAIKU、または俳句の本質を継承した真実の俳句というべきだと私は思う。磯田氏は黄氏の漢語俳句を日本俳句の翻訳というが私はそうとは思わない。俳句の本質を歩む HAIKU である。黄氏は「湾俳」という造語を使っている。それは大まかに台湾という環境で創作された俳句の意味で、台湾文芸と台湾語文芸の違いをさす。黄氏は台湾で日本語文芸を多く創作したが、一部の人から台湾文芸ではないと貶められた苦い経験があるゆえ漢語の台湾俳句(湾俳)を台湾で創作された漢語俳句の意味にただけである。しかし私は台湾俳句(湾俳)をあくまでも純粋の台湾語で詠まれた俳句と解釈したい。でなければ今世界で詠まれている HAIKU に添わないからだ(漢語俳句と湾俳の詳細については『世界俳句』第7号 pp101-113 または <http://oobooshingo.blogspot.tw/2010/07/002.html> をご参考ください)。黄氏は1993年、知人で時の台北県県長尤清氏に働きかけて県の文化センターで漢語俳句教室を設立し三ヶ月(28時間)を一期とし、四期続いた後、漢語による台湾俳句会を結成し、一人でも天才がいる事を望んだが、どうも当てが外れたようである。彼は同じ文の中で言う、ある人の詩を了解するためにはまずその人の平生を知るべきだという論法に関する思惟である、たとえば、作品の互選をするときに、まず作者の意見を聞かなければ、この一作の必然性やその趣、そのよさがわかる筈がない。つまり作品は作者あつての作品である、と言う主張を彼は斥けた。いうには作者の知れないミロのビーナス像を、作者の知れるモ

ナリザより美しいと彼は思うと言うのである。続いて彼は言う。小人の僻み根性かもしれないが、と。天才的思惟である、が一昔前彼は自分の作品が他人によって翻訳されるのを忌み嫌った、その彼が2011年東行(張月環)氏の漢語詩集の日本語翻訳を引き受けた。その<訳者のことば>で彼は言う:「文芸作品の他国語への翻訳は、(中略)極力これに反対してきた。その私が張月環さんの詩集『果物の詩』の日文訳を引き受けすることになった、キツネに撮まれるとはこのようなことであろうか。(中略)とまれ、翻訳にはかならず誤訳が伴う……。だがしかし、作品とは作者あつての天下である。……」と、天才のひらめきというか、私のような凡才にはわからない。またいつの日にか天才の新しいひらめきもあることだろう。

黄氏のほかにも幾たりかの漢語詩人が漢語俳句に立ち向かった。彼らは国際的にも知られた詩人である。それ故詩才、詩情については言うことはない。はっきりと俳句と銘打って出された俳句集もある。が、どうも俳句と言いがたいようである。また二十世紀末、台湾の新聞紙上でも一時俳句熱があったが、長続きはしなかった。その理由ははっきりしないが、私なりに想定すると多分俳句の本質にかんする解釈やその本質に触れる漢語俳句についての解釈や説明がたりないのが原因の一つであるが、日本国内での俳句の本質に関する論説の不定性にも由来すると考える。俳句とはと聞くと、必ず先ず有季定型を持ち出す。そしてそれは広い意味での俳句の一つの型であるとは言わないで、それが一切のように言われる。日本語を知らない外国人はこんがらがってしまい、俳句の果ては漢俳という俳句の俳の字の付いた俳句でない新しい漢詩の一型を生み出し喜ばれている。まことに悲しい喜びだが。

漢俳が俳句でないことは黄氏もはっきり言い切っている、そして朱実こと瞿麦氏もそれに触れている(私の漢語俳句に関する考えは別に載せて

ありますので【呉昭新：《漢語/漢字俳句》—漢俳、
湾俳、粵俳、……とは？—『世界俳句』—2011
No: 7, pp: 101-113；世界俳句協会、日本】までお
越してください。

ネットをサーフィンすると、最近若い人たちが
中国の漢俳の真似をして漢俳を俳句と思いこんで
一生懸命頑張っているようだ。漢俳を漢詩の一新
型、として詠むのはよい事だが、漢俳を俳句と間
違ってもらっては困る、漢俳は本質と構造から見
て日本の俳句よりもむしろ短歌に近い。でもこの
二三年「漢俳は蘇俳よりも俳句に似ていない」と
言う書き込みを見つけた。このグループの人たち
は他の人たちよりもある程度俳句の本質に近づい
ているようである（蘇俳とは旧ソ連の俳句のこ
とで、いまのロシア俳句にあたります）。私が『《台
湾俳句》之旅』の一文をネットに載せてからはや
四年半が過ぎた。ネット上の延べビジター人数は
約 4000 人に上る。けっして多い数ではないが、
台湾にも俳句に多少興味を持つ人もいるというこ
とだ。ほかに小生の俳句に関する文章および湾
俳、華俳の自詠句のページへのビジターも少なく
ない、また明らかに私のウェブサイトと呼応して
客家語で詠まれた客俳のブログも出てきた。惜し
むらくはまだ漢俳を漢語俳句の典型と思い違いを
している点である。

（四）台湾俳句の未来：

台湾の俳句会は高齢者が多かったため、ネット
での新しい俳句の方向を知るのにハンディキャッ
プがあった。でも去年あたりからタブレット PC
が出回り、高齢者でも使いやすくなったゆえ、使
用者も増えてきた。ネット消息の遅れによるハン

ディもそのうちに追々無くなるだろう。

最後に望むことは台湾では、黄氏が築きあげた
台湾の俳句会を若い人たちが受け継いで真の漢語
俳句および俳句の本質に則った俳句 (HAIKU) を
詠むことにある。俳句の道は広い、決して一般に
知られている有季定型だけが俳句ではない、有季
定型、花鳥諷詠、写生の伝統俳句は俳句の一部で
はあるが全部ではない。俳聖正岡子規さえも見逃
した素晴らしい俳句を残した俳人たちがいる。若
し子規が若くして短い一生を終えなければ、今
の俳句界はもっと変わっていたであろう。日本人よ
世界の人々がこれほどまでに日本に起源する俳句
文化に親しんでいると言うのにどうして一部の日
本人はそれを受け入れようとしないのだろうか。
そして台湾の若い俳人も俳句の本質に則った
Haiku を詠むべきである。

角帽の写真を飾り二二八 許秀梧

二二八事件：1947. 2. 28日

主な参考文献

- 1) 朱実：中国における俳句と漢俳；『日本語学』—vol.14：53-62
(1995)—明治書院—日本。
- 2) 夏石番矢：現代俳句のキーワード；『日本語学』—vol.14：25-31
(1995)—明治書院—日本。
- 3) 呉昭新：《漢語/漢字俳句》—漢俳、湾俳、粵俳、……とは？—
『世界俳句』—2011 No: 7, pp: 101-113；世界俳句協会、日本。
- 4) 劉淑貞『黄靈芝文学之研究—以《台湾俳句歳時記》為中心』中
国文化大学日本語文学研究所碩士論文、2006。(華語)
- 5) 李秋蓉：詹冰及其兒童詩研究：國立雲林科技大學漢學資料研究
所碩士論文；2003。(華語)
- 6) 今泉恂之介：《子規は何を葬ったのか—空白の俳句史百年—》、
新潮社、東京、日本、2011。

セカイノメイシヨ

文 高雄事務所 坂田 / 写真 高雄事務所 大辻

皆さんは、一生に一度は訪れたい場所ってありますか？

「私は地球を出て月に行きたい。」「世界一周して世界遺産を制覇したい」「日本国内も全部回っていないので日本各地を回りたい」という方もいるかもしれませんし、ピンポイントで「聖地ウルル（エアーズロック）が見たい!」「マーライオンの前で同じ格好で写真を撮りたい!」という方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、そんな皆様へ坂田・大辻コンビによる最後の台湾通信をお届けします。

「ははぁん。今回は、桃園のミニチュアワールドだなあ」と思われた方、かなりの「台湾通」です。しかし今回は、ちょっと違います。

台湾の離島にある素晴らしい景色を紹介したいと思います。

まずは、「聖地ウルル」。言わずと知れたオーストラリア中央にあります世界最大級の一枚岩「エアーズロック」です。こんなものが台湾に?しかも離島に?と思われるかもしれませんが、こちらの写真をご覧ください。これは、澎湖島からさらに小舟で行った離島にある風景です。海岸線のじ



澎湖

おばーくの写真はよく見ると思いますが、陸に忽然と現れる姿に思わず「感嘆〜」です。

続きまして、「シンガポールまでの飛行機がきつい」といわれる方へのおすすめ。それは、金門のシーサーです。これがマーライオン??と思われる方。遠くから薄目で見れば、見えなくもありません。まさに「いわしの頭も・・・」であります。



金門風獅爺

10月に南ソロモン諸島で傾光に光る海ガメが世界で初めて発見されて、話題となっております。台湾では、蛍光色に光る海ガメはみることはできませんが、高雄付近の東港からフェリーで約30のところにある小琉球に行けば、運がいいと海岸を歩いているだけで、天然のウミガメに遭遇できます。これで、ハワイやセブに行って、スクーバダイビングやシュノーケリングなどしなくても、大丈夫ですね。

最後に、「日本国内でもすべて回っていないのに・・・」という方、せっかく台湾にいらしたら、日本の長崎佐世保の九十九島を台湾で見ってしまうという不思議体験はいかがでしょう?これは、台東にある「緑島」にいけば、一粒で二度おいし



小琉球



蘭嶼



綠島



馬祖旧市街保存地域

い感じです。

特に、穏やかに晴れた夕日の時間は、静かに時間が流れて、どこにいるのか？今日がいつなのか？自分は誰なのか（←これはない）忘れるぐらいであります。

このほかにも、海と陸のコントラストが最高に素晴らしい1000年前のベニスの海岸線を思わせるような蘭嶼島であったり、一瞬イエメンサヌアの旧市街地を思わせるような媽祖島の旧市街地保存区など、あげ（こじつけ!？）れば、きりがありません。

これまで、たくさんある台湾の風習や景色の、坂田主任が文章を、大辻主任が写真を担当してまいりました。少しでも台湾のことが好きな人が増えてくれればいいと思い、台湾大好きな二人の高雄事務所の主任が、コンビを組んではじめた台湾通信も今回のお届けが最終回となります。これまで二人の独断と偏見で、半歩首を突っ込んだり突っ込まなかったりしながら、お届けしてまいりました。お楽しみいただけましたでしょうか？これからも台湾のことを愛し続けたいと思いつつ、今回はここでペンを・・・カメラを・・・置きたいと思います。

どうもありがとうございました。

編集より

今年も残すところあとわずかとなりました。

この1年「交流」をご愛読いただきありがとうございます。この場をお借りし御礼申し上げます。

来年は申年。申年は果実が成熟していく途中、実が固まっていく状態を意味するそうです。

日台関係も、来年はこれまで以上に緊密な関係となり今後益々発展していく素地が出来上がることを期待したいと思います。

では皆様よいお年をお迎え下さい。

富岡明美

光陰矢のごとし、あっという間に今年も終わろうとしています。年賀状の準備やら断捨離やら胃薬必須の飲み会に追われているうちに、もう猿（申）のしっぽの先が見えそうな年の瀬です。

年々、時間の経過がとても早く感じられます。子供時代は発見と感動という「今」を味わうことで記憶が定着し、大人は過去と未来にとらわれ、「今」を素通りするので「あっという間」の感覚だけが残ると言う分析、とても身にしみて感じます。

早く沢山の仕事をこなすことが美德とされる社会人生活。発見と感動は難しいかも知れませんが、ルーティンな毎日にも何か一つ丁寧に行うことを来年の抱負としたいと思います。

皆様も良いお年をお迎え下さい。

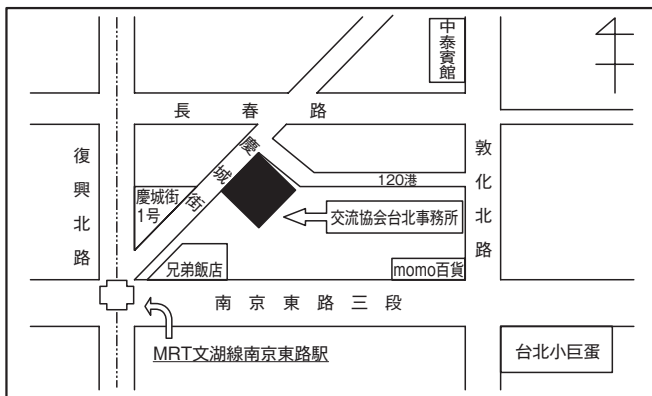
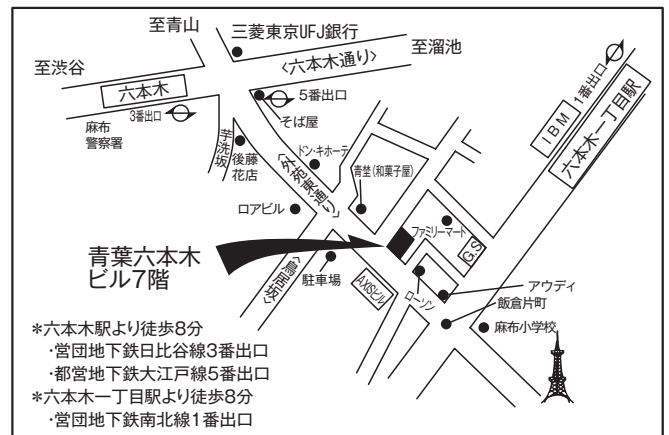
鳴海麻里



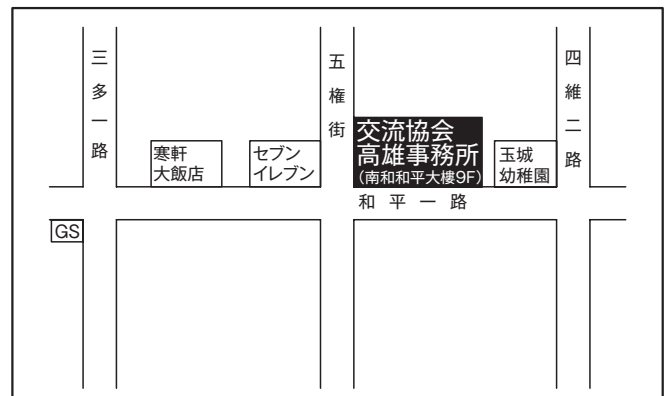
絵：宮崎菜津子

平成27年12月25日 発行
 編集・発行人 舟町仁志
 発行所 郵便番号 106-0032
 東京都港区六本木3丁目16番33号
 青葉六本木ビル7階
 公益財団法人 交流協会 総務部
 電話 (03) 5573-2600
 F A X (03) 5573-2601
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

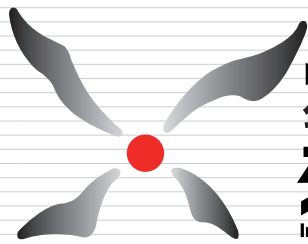
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei
 電話 (886) 2-2713-8000
 F A X (886) 2-2713-8787
 URL http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号
 南和和平大樓9F
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan
 電話 (886) 7-771-4008 (代)
 F A X (886) 2-771-2734
 URL http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3_contents.nsf/Top



日本と台湾との架け橋

公益財団法人

交流協会

Interchange Association, Japan (IAJ)

